

平成15年度～19年度 私立大学学術研究高度化推進事業

学術フロンティア推進事業 平成17年度 研究成果報告書

第3部門

創年学入門

高齢者の生きがい対策と  
生涯学習まちづくりネットワーク創り



SEITOKU UNIVERSITY  
INSTITUTE OF LIFELONG LEARNING

聖徳大学 生涯学習研究所

# 普及資料 「創年」の発行について

いま、わが国は世界でも例のない超スピードで高齢化の時代に入っている。早期退職者や子育てを終えた第3期の女性たち、一人きりになつた高齢期の人々、将来の生活への不安を抱きながら孤独な多くの人々。何かをしたいのに、何をどのようにしたいのかわからず、何かしら焦りを感じる。人々の多くはこうした悩みを持つているのではないだろうか。

そうした中で、人々は生きがいをもつて、自分のため周囲のため、何かの目標を見出すことを希望している。ただそのためには、目標を定め自ら生きる努力をすることが大切である。そして同時に、大人も子どももお互いに、能力を活かしあい、支えあう地域社会・環境をつくる必要がある。それが創年時代における一般的な課題である。

創年とは、常に自分の力を生かして周囲のために活かそうとする年代であり、これを、生涯現役という人もいる。誰でも自分を伸ばしながら、社会のために生かしたいと望んでいる。それは、人として自然なことであり、そのためにも自らを高める必要がある。

いま、各地で展開されている、「創年市民大学」「創年のたまり場」などの具体的な学習活動が、注目されている。またその学習を通じて、周囲のために自分の得意なものを活かして社会に貢献しようとするとする活動が、各地で始まっている。人々が、できることなら自分も何かをしたい、何かの役に立ちたいと願つて、さまざまな活動に取り組み始めているのである。これは「創年活動」と呼ばれ、その関連で様々な取り組みが、展開されているのである。創年活動の発展は、高齢社会を迎える日本の、地域の活性化に貢献するものと考えられる。それは、一人一人が自分を磨き、個人ができる範囲で、地域に貢献しようとする活動であるからであり、また、それは、個人の活性化を源にして、地域の活性化を促す活動であるからである。さらに、コミュニティ形成に効果をもたらす活動であるからである。

聖徳大学生涯学習研究所は、平成15年、文部科学省の学術フロンティア推進事業の採択を受け、5カ年にわたる研究・実践に入っているところである。

その研究は、「生涯学習の観点にたつた少子高齢社会の活性化に関する総合的研究」における、「高齢者の生

きがい対策と人材活性化に関する研究」（第3部門）、「大学と地域の協働による生涯学習システムの構築」（第4部門）にかかる研究の一部である。

このなかで、第4部会はこれまで、「地域における中・高年者も地域活動の拠点に関する研究」を推進している。また、NPO法人全国生涯学習まちづくり協会が、独自に進めている「創年のたまり場」活動と、学術フロンティア推進事業プロジェクトと連携して、創年の活動をさらに発展させることが期待されている。そのため、ここにその研究活動の一端を、NPOと協力して広く市民に発表することが必要であると考え、ここにその一端を普及版としてまとめるものである。

本書が広く活用されるよう期待したい。

研究者代表

聖徳大学生涯学習研究所 所長

福留 強

## 中高年（創年）の地域活動の研究

中高年者が、生きがいを求めて地域で様々な活動をする機会が求められている。高齢社会を迎え、人々の健康、経済、生きがいなど、生活のあらゆる分野に不安が増大しつつある。さらに、中高年者に関しては、近年、団塊の世代が大量に発生することを中心には、様々な課題が提起されている。例えば、仕事づくり、地域での活動への参加、青少年の健全育成に関する役割、子育て支援など、いわば地域活動について、中高年者を対象とする生きがいに関する課題が増大しつつある。にもかかわらず行き場のない人々が増大している。

しかし、中高年者は、これまで人生で培った知恵や生き様など、その存在価値は減ずることなく、むしろ大きな地域財産となりうるものである。こうした中高年者を積極的にとらえ、人生をさらに輝かせるという意味を持つて、これを「老人」とせずに「創年」と称し、地域活動の担い手や企業家としても、継続的に期待することが可能である。

この研究は、学術フロンティア推進事業において、創年の地域活動のための地域組織や拠点づくり、NPO等とのかかわりとともに、中高年者をめぐる仕事づくり、地域における役割などを研究しようとするものである。研究テーマとの関連

第3部門 高齢者の生きがい対策と人材の活性化に関する研究  
第4部門 大学と地域の協働による生涯学習システムの構築

## 研究の目的・内容

この研究は、次のような項目について研究するものである。

中高年者が、地域で生きがいを創るためにプログラムに関すること

中高年者の地域におけるたまり場の意義

中高年者が地域で生きがいを作るための条件

中高年者と青少年の交流を通じた地域の活性化に関する研究

中高年者が地域で生きがいを創るために、大学と団体・NPO等との連携のあり方

中高年者が地域で生きがいを創るために大学の役割

大学の社会人講座におけるプログラムの開発など

## 研究の方法

①団体・NPO等との連携による中高年者の生活に関する調査研究

②中高年者の生き方にに関する各分野の研究者による研究会の開催と成果の発表

③各地に市民が設置する研究と実践の拠点（たまり場）づくりの研究

④地域における仕事づくりに関する研究会を出前講座として実施

⑤研究報告書の作成

⑥仕事づくり研究成果の実証（空き店舗の活用等）

## 創年の地域活動拠点（創年のたまり場）の研究

子育てを終えた主婦たちや、リタイヤした高年者たちのように、これから生き方を探り、新しい自分でくりに挑戦する時代を「創年」と呼ぶことにしているが、いま、この創年も地域の人々と語り合う機会や場が失われつつあるといわれている。

そして、こうした創年たちや地域の人々が、お茶やコーヒーを飲みながら、まちづくりや子育て、地域の青少年の育成など、日常的な悩みや地域の課題等を気楽に語り合い地域活動を進める身近な拠点（創年のたまり場）が求められている。

## 事業の推進

① 全国の共同研究自治体に、市民が設置する研究・実践の拠点を指定・委嘱

平成16年度に16箇所を研究指定

全国生涯学習まちづくり協会との連携事業を実施

② 「身近な地域活動拠点」（創年のたまり場）に関する研究会

身近な地域活動拠点（創年のたまり場）の機能

① 小グループの研修会場

② 地域の情報・資料の設置

③ 市民の作品の展示や販売

④ 創年の知恵で、子育て支援および地域の子どもの悩み相談の場

⑤ 青少年と創年の交流の場（青年が創年にパソコンを教えるなど）

⑥ 地域の創年のたまり場（お茶、コーヒー等が安くなる）

## この事業によつて期待される効果

① 創年の学習の場となり創年の生きがいづくりに役立つ

② 地域の活性化に効果が期待される

③ 地域のコミュニケーションが活発化し、コミュニティ形成に役立つ

④ 子育て支援など創年の知恵が地域に生かされる

⑤ 旅のキーステーションとして案内・生涯学習まちづくりの役割が期待される

⑥ 創年のたまり場は、雇用の場が期待される

## NPOとの連携協力

この研究は、特定非営利活動法人・全国生涯学習まちづくり協会が実施する「創年活動」と連携し、同協会会員の自治体の協力をえて、共同研究を推進しているものである。

## 研究誌「創年学」の発行

研究者の論文集として、学術フロンティア推進事業としては、論集「創年学」を発行しており、この研究の基礎となるものである。

## 目 次

「創年」で、大きく変わりはじめた 福留強  
「われら創年」宣言

稻垣美穂子 山本 學

坂本祐之輔 川上哲治

創年のたまり場とまちづくり

創年のたまり場

創年(高年期)は何をすればよいか

地域の医・薬・福祉のまちづくり拠点対談

全国に「創年のたまり場」をつくろう

創年のたまり場の風景

トピックス

創年のたまり場オーナーの心得

# 1 「創年」で、大きく変わりはじめた

福留 強

## 1 創年つて、考えてみませんか

昨年末、東京から下りの電車に乗っていたところ、突然、向いの席の男性から、話しかけられました。

「今日は御用納めですか」

「ええ、まあ」

「やつぱり勤めつて、いいですね。私なんか、定年前の58のときに会社を辞めてしまいましてねえ」「じゃ、今は悠々自適の毎日ですね」

「とんでもありません。十分に退職金をいただいたので、最初の2年間くらいは、そりや楽しかったですが、3人の子供も結婚していくて、いまは女房と2人きりで、退屈きわまりないです」

そうはいつても、彼はハローワークに職探しに行っていて、何種類かの仕事をやつたそうです。手取り14万円から15万円くらいの仕事なら、なくもないのだけれど、それらは彼にとつては「単純労働」なので、すぐに飽きてしまって、やめてしまったそうです。

「やっぱり、それまで勤めていた会社を早く辞めるべきじゃなかつたですね。私は、いま64歳ですが、いまでも十分に仕事はできますからね」

そんな話を聞いているうちに、聖徳大学のある松戸に着いてしまい、またお目にかかつたときに続きのお話を、ということで別れてしまつた。

電車を降りた私は、どんな仕事をすぐに飽きてしまうという彼に、

「創年って、考えてみませんか。これは、おもしろいですよ。やめられませんよ」と、言うべきだと、少し後悔をした。

## 2 創年とは、自分をよりよく創り変え、地域で積極的に生きる人たち

「創年」とは、自分を新しく、自分に応じて、自分のレベルで、自分をよりよく創り変る、というような意味の、私たちの造語です。地域で、自らの力を發揮し、積極的に生きる人たちも、私たちは創年と呼んでいます。

そのような人たちには、だいたいが40代から70代くらいまでなので、従来は中高年と呼ばれていました。ときには、シルバーなどと、しゃれた呼び方をされることもあったのですが、電車やバスのシリバーシートが定着したあたりから、シルバーにも老人とか高齢者というようなニュアンスが色濃くなり、中高年の別称のような感じになりました。

私たちも、自分を含めて、地域で活発に活動をする仲間を「中高年」と呼んでいたのですか、なんだかしつくりしませんでした。日々、自分をよりよく創り変えているという意味では、青年そのもので、実際に地域の青少年とともに活動しているのだから、もつとほかの呼び方はないものかと、いろ

いろと考へてゐるうちに、ふと「創年」という言葉を思いつき、そうだ、創年と呼ぼうということになつたのです。

そして、創年の実年齢は、7掛けにするということも、勝手に決めさせていただきました。80歳ならば56歳、56歳ならば39歳というわけです。ただし、そこまではちょっと気が引けるという人は、8掛けでもOKです。どうぞ80歳ならば64歳、64歳ならば51歳と自己申告してください。

中高年と呼ばれる年齢に達したからといって、従来のような中高年にはならない、もっと元気に、前向きに、創造的に生きようと考えた時点で、あなたは創年で、7掛けとなります。

なかには、せつかく仕事を離れてゆつくりしようと思つていたのに、創年として無理やり元気を出さなくともよいのではないかという意見があるかもしれません。年寄りの冷や水は、たしかに体に悪いので、もちろん無理に元気を出す必要はありません。ふつうにしていて、自分の力を周囲のために役立てたいと思ったときに、創年を名乗つていただければよいのです。そういう日は、必ず来ますから。

それというのも、そもそも中高年というのは、65歳くらいを前提にした呼び名だったのです。60歳定年というのも、そうです。男性の場合、だいたい65歳くらいでこの世を終えるので、定年は60歳。このときには数年分の退職金をもらえば、あとは年金とあわせて悠々自適というわけです。

それが、どんどん0歳児の平均寿命、60歳の平均余命がどんどん伸びていって、60歳で定年を迎えたあとの人生が、ほんとうに長くなつてしまつた。かつては、定年後は5年ほどであつた余命が、平均して10年になり、15年になり、最近では20年近くになり、定年後30年、90歳現役という人まであらわれるようになつた。

女性の場合も、ご主人が60歳で定年を迎えた後、あとは数年だということで、だいたいは静かに暮らしてきました。それが、いまではそこから20年から30年もあるということで、ご主人の定年後の人を真剣に考える必要が生じ、熟年離婚などということにもなっているわけです。

少子高齢化問題というときの高齢化は、寿命が伸びたということを指しているだけではあります。寿命が伸びたにもかかわらず、その現実を受けいれる社会の仕組みが、十分に整っていないことをも指しているのです。

ですから、高齢化社会の問題は、国をあげて取り組まなければならない課題ですが、自分の力で解決できる人は、できるだけ早く自分の力で解決したほうがいいのです。創年は、そのためのキーワードになるものもあります。

### 3 創年時代、50歳は折り返し地点にすぎなくなつた

男性の場合は、高齢化によって、定年後ということが大きく浮上してきたわけですが、女性にとっては子育て後というのが、大きく浮上してきています。この場合の女性の子育てというのは、子どもが男の子ならば学校を卒業して就職し、結婚をするあたりまでで、女の子の場合は、同じく結婚をして子どもを出産するあたりまででしよう。

男の子ならば、結婚したあたりで一段落、女の子ならば孫を生むときの世話を終えて一段落というわけです。そこから先も、なにかと子どものことを気づかう親もいますが、だいたいこのあたりま到来ると、母親は子離れをして、ほつとして肩の荷を降ろすものです。

年齢的には、20歳代で最初の子どもを産み、50歳前後のときに、その子が結婚をし、ほどなく孫が

できるということで、早ければ40歳代の後半、遅くとも50歳代の後半くらいです。

かつては、そのあたりから数年で、ご主人が定年を迎え、その数年後にご主人の体の具合が悪くなつて看病をするとか、お亡くなりになるというようなことがありました。

そのころ、ふと、自分にはまったく社会的な経験というものがなかつた、こんな自分でよかつたのかと、思つたりもするのですが、残された年月があまりにないので、それほど深く考へることもなかつたというのが、これまででした。

しかし、いまは違います。40歳代の後半から50歳代の後半で、人生を達観したり、諦めたりすることはできません。それは、いまの女性にとつては折り返し地点にすぎないので、その後に、まだ人生の半分が残されているのです。

買い物、旅行、コンサート、カルチャーセンターには、女性が溢れ、「冬のソナタ」がブームになると、それつとばかりに韓国を訪ねたりもしています。しかし、そのような元気のある女性は、あくまで一部なのです。

学生時代の活発な思い出が一挙に蘇つてきているかのような女性たちのパワーが、地域社会における活動の原動力になつていてる例が多いのは確かです。いわば力の発揮場所を見出した数少ない女性たちであるといえるでしょう。

問題は、目標が見つからず、何をすればよいのかわからない圧倒的多数の「何かしたい」「自分を生かしたい」と思つてゐる女性を、いかに創年女性にするかです。

## 4 定年後、子育て終了後の夫婦の年月が、ものすごく長い

人生65年時代には、子どもができたあと、夫婦ふたりきりの時間というのは、それほどありませんでした。子どもを育て終わつたあとの夫婦ふたりきりの年月が長くなつたことも、創年時代の大きな特色です。

会社人間として、とにかくがむしゃらに働いてきた男性の場合、定年になつたからといって、すさまじ地域に溶け込めるわけではありません。近所にどんな人が住んでいるか、どんな子どもがいるかも知らないわけですし、お祭やラジオ体操など、どのような地域の行事があるかも分からなかつます。

地元で商店などを営む人はいいのですが、地域の外で仕事をする人の場合、できるだけ地元の行事に参加することをお勧めするのは、そのためでもあります。

子どもの小中学校の行事やPTA活動に積極的にかかわることも、いいことです。とくに公立の中学校の場合、地域と密接ですから、小中学校の行事やPTA活動に関わることによつて、地域とのお付き合いも広がります。

そうして、地域の外で仕事をしているときから、ある程度地域に根ざしたことをしていくと、地域の外での仕事を定年で終えた後も、子どものこと以外に、夫婦に共通の話題がなくなるということはありません。

創年時代は、人生65年時代とはちがつて、夫婦ふたりきりの年月というものが、ものすごく長いので、これはとても重要な点です。

## 5 現状を明るく肯定できなければ、加齢が一つの財産にならない

「第3期の女性」という言葉があります。第1期は、結婚をするまでの独身時代。第2期は、子育ての時期。そして、子育てを終えたあとが第3期というわけです。

人生65年時代においては、第3期は付録のような時期で、第2期が、女性として、母としての黄金時代と言われてきました。しかし、創年時代においては、この第3期こそが、最も重要な、意味のある生き方をしなければならない時期であるということです。しかも、いちばん長いのも、じつはこの第3期なのです。

男性の場合は、会社を引退した時期が、女性の第3期に相当しますが、この時期になると、自分の親が亡くなったり、子どもが独立したりで、同居する家族も減りはじめます。会社を引退したことにより、仕事上の付き合いも減り、社会的な仕事も減ります。

そのことにより、「かえって何かしたい」「その自信もある」というような気持ちになる人が多いようです。しかしながら、そう簡単になすべきことは、見つかりません。

年金は貰えますが、その金額も少ないことから、最近では将来に対する不安を持つ人も多いようです。経済的にはゆとりはなく、健康にも自信がなく、気が滅入つて仕方ないという人が、確実に増えています。

創年になつていかなければ、現状を明るく肯定することができない、加齢が一つの財産にならないというわけです。

## 6 期待が広がる団塊の世代

団塊の世代は、現在定年を間近に控えた世代となっています。団塊の世代が、企業の第一線から退きはじめるのは、2007年からであり、その総数は750万人近くに達します。

それは、2007年以降の数年間で、職場から地域への大移動が起こることであり、定年後の人生が長くなっているため、その後も「職場から地域への大移動」が、どんどん積み重なっていくということです。

団塊の世代のなかで、会社や役所に勤めたものの多くは、いまや高額の給与所得者となっています。その世代が定年を迎えることにより、企業の収益が一時的に上がるという試算もありますが、これは同時に、消費が職場近くから地域に移るということでもあります。

会社帰りに居酒屋に立ち寄っていたサラリーマンが、地域の居酒屋に行くということであり、職場で背広を買っていたのが、地域の商店街や量販店でカジュアルウェアを購入するということでもあるわけです。駅で新聞を買っていたのが、地域の図書館を利用するようになるといった、直接消費にはつながらないが、地域の活性化につながるというようなこともたくさん出てくるでしょう。

団塊の世代は、その上の世代のように、企業戦士になっている人は少ないようですが、それでも仕事に精を出した世代であり、地域社会との結びつきは弱い世代です。

そのため、「職場から地域への大移動」を行つたものの、このままでは地域においては浮き上がってしまうかねません。意欲も力もありながら、地域で活動できない、地域のために役立たない層になります。

## まず連帯を感じる活動を 開始しよう

都会でマンションに住んで、勤めに出でていた場合、同じマンションの住人と顔をあわせる機会は、ほとんどありません。

かくいう私もそうなので、エレベーターで会う人には、なるべく積極的に��拶をするように心がけています。本来は、

「○○さん、今日はお出かけですか」

「やあ、ちょっと上野まで行ってきました。マチス展が、今日まででしたから」

というように、会話ができるほうが多いに決まっています。

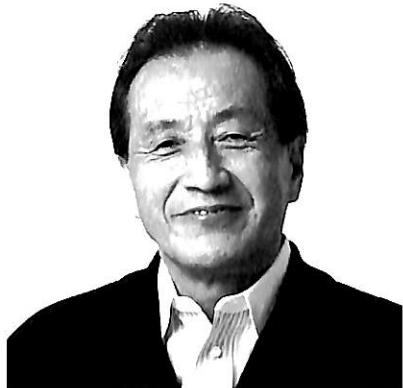
しかし、定年後ともなると、そのような会話や人づきあいさえも、億劫になります。だからこそ、都会では、まずは隣の人に挨拶することからはじめ、徐々に輪を広げる工夫をしてみましょう。何をいまさら、などとおっしゃらずに、これはぜひ実行していただきたい。

私もそのことをしっかりと実行し、近所の輪をもっと広げるために、近所の風景を撮影した写真を、マンションの掲示板に展示してみようと思っています。そのことで、仲間が1人でもできれば、まずは成功だと思っています。

団塊の世代は、定年後もおそらく現役で十分に活躍できる気力と体力を保持するに違いありません。はじめてジーンズを穿いた世代で、ビートルズ世代でもある彼らは、気持ちもファッションセンスも若く、その多くが老人クラブに入る気などありません。だからといって、定年後の人生を楽観しているわけではありません。このままでは長過ぎる定年後の人人生に対して、漠然と暗い予感を抱いている人は、意外に多いのです。「創年」は、そうした近々「職場から地域への大移動」を行う団塊の世代に、うつてつけのテーマであるといふことがいえるでしょう。



稻垣美穂子  
(女優・劇団目覚時計代表)



山本 學  
(俳優)

# 「われら創年」宣言



坂本祐之輔  
(東松山市市長)



川上哲治  
(野球解説者・元巨人軍監督)

# 劇場を家族、 異世代交流の場に、生涯現役で

稻垣美穂子

(女優・劇団目覚時計代表)



心の時代といわれています。

その心が病んでいる時代ともいわれています。子どもも大人も、病んだ心と凍った心。いま、心を治療する病院は、どこにも見当たりません。

子どもの柔軟な心を育むのに欠かせない「感動」……その感動の場を一つでもたくさんつくりだすこと、それがいま、大人たちが青少年にできる最大のプレゼントだと信じています。

演劇は、心を開放させ、心を高めていく力をもっています。それは自分を啓らき、新しい自分を発見し創る力も秘めているようです。

劇場を家族の交流の場に、心をつなげる場にしてもらおう。

私たちが築いてきた、心を振るわせた、たくさんの素敵なことを、親から子へ、子から孫へと伝えたいことう。

一人一人の小さな力も集まれば素敵なことができるはず。「創年」は、忘れかけた自分の力を信じ心を信じ、ささやかでも立ちあがる姿を表わしているようです。どんなに小さくても、人は新しい自分に立ち向かう力があるものです。どうぞ、まだ小さくとも一番大切な運動に参加してください。

# これまで蓄積してきたものを、 社会のため、青少年のために 活かす「創年」運動に賛同します

山本 學  
(俳優)



今、子どもたちが病んでいるといいます。子どもだけではありません。大人も多くは自分自身を見失っているかも知れません。人生が80年から90年にもなるような勢いです。

人生を意義あるものにするためには、人はそれぞれ、自分にできることを、周囲のために尽くすと  
いう生き方も大切だらうと思います。

創年は、まさにそのような生き方を表す言葉です。決して老人とは呼ばず常に前向きに生きる大  
切さをあらためて感じます。これから的人生を、これまでの蓄積してきたものを、社会のため、青少年  
のために生かすという「創年」運動に賛同します。

また、創年運動の拠点として、「創年のたまり場」を広く全国に広げ、人と人とが心をつなぐコミュ  
ニティ形成の場として役立つように、創年のたまり場運動を進めたいものです。多くのみなさんのご  
参加をお願い致します。

# 私自身いつまでも創年で、 創年市民とすばらしい都市を つくり続けます

**坂本祐之輔**

(東松山市市長)



創年がまちをつくる。まさにこれからのはまちは、一人一人の市民が、生きがいを持つていかに生きるか、が問われる時代です。それは一人一人の市民が、自らを、まちのために生かす。それが自分で育てまちを育てることになるのです。それはまさにこれからのはまちづくりの目標でもあります。

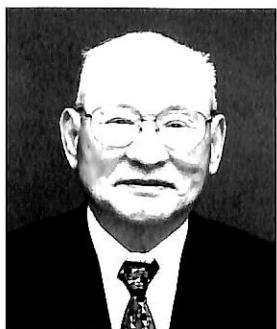
そのためには、一人ひとりが、これまで以上に自分自身をつくり変えていくことが必要だと思います。それは日々、私自身も心がけていることでもあり、それが「創年」であることを市民に先駆けて、まず私から宣言したいと思います。

私は、いつも市民とともに歩きたいと心がけていますが、それは「創年の心」ともいえるものではないでしょうか。私はいつまでも創年であり続け、多くの市民の創年とともに本当に生きがいがもてる素晴らしい都市を創りたいと思います。

# つねに新しい自分を見出し、 野球を通じて、青少年のために 私自身を役立てますと、 「創年」宣言をいたします

川上哲治

(野球解説者・元巨人軍監督)



私は長い間、野球のグラウンドで戦ってきました。一つのボールを追いかける。打ち、守り、走り、力い  
っぱい戦う、それが、これまでの私のすべてでした。また、プロ野球に身を投じて、多くの野球ファ  
ンとともに、夢を追ってきました。ユニホームをぬいだ後も、まだ野球は、私の中で続いています。  
このような私にとつての長い戦いの野球人生は、今は、また違った意味での戦いとして続いていま  
す。それは常に新しい自分を見出す、まったく異なる体験の場であります。それは自分のためです  
が、結果的に世の中のために、特に日本の青少年のために、野球を通じて、私自身を役立たせようと  
する戦いでもあります。

しかし、それはまた自分の人生をさらに育む楽しさに満ちた生き方だと考えています。常に新しい  
自分にチャレンジすることは必要です。かつての私の背番号16番の思い出や、巨人軍のかつての戦友  
たちとの思い出をもつて、私も何かのために役立てるために活動を続けたいと思います。そして、そ  
れが「創年」ということならば、あらためて私も「創年」を宣言します。

# 「創年」と「創年のたまり場」づくり

## 1. 創年とは

「創年」とは、地域のために自らの力を發揮し、創造的に生きる大人（中高年）を呼ぶ。少子高齢社会における「創年」は、「老人」や「高齢者」とは呼ばず、地域の青少年とともに、生涯にわたって自分が輝き続けるよういきることを主張するものである。

私たちは、これまでの生き方を見直し、地域のために自らの力を發揮し、創造的に生きる大人（中高年）を「創年」と呼ぶことにしています。

子育てを終えた主婦たちや、リタイヤした時間的に余裕のある人々のように、人生をリフレッシュして、これから生き方を探し、新しい自分づくりに挑戦しようとするのが「創年」です。「創年」は、それぞれの世代に様々な課題を抱えていますが、それでも意味ある生き方をしたいと誰もが望んでいるのです。

## 2. 創年の意義

「創年」を主張することはどのような意義があるのでしょうか。多くの人々が「創年とは、いい言葉ですね。その意味については誰でも納得するものがあります」といいます。

創年の意義として次のような3つの視点があげられるのではないでしょうか。

- (1) 生涯現役の視点



創年とは、いわば生涯にわたって現役であり続けるということです。創年であるためには、常に周囲のためになろうという夢があるものです。それはできるだけ現役として活動し続けることです。いわば生涯現役を標榜することと同じです。

## (2) 生涯学習の視点

そのためには常に、自らを磨き、自己を高めつづけることが必要です。それは「生涯学習」を実践することを意味しています。学びつけその成果を活かし、ますます学習意欲を高めることなどは、生涯学習そのものといつても良いものです。

それはまた、生きがい対策にとつても大きな役割を果たすものと考えられます。学び続け地域に役立ち必要とされることによって、心身の活性化をもたらすものと言えるでしょう。これは人々にとつて生きがいになるものと思われます。

## (3) 地域の活性化の視点

創年は、一人一人が自己を高め、地域に自己の能力を生かすことです。それは生涯学習まちづくりの基本的な考え方です。創年の活動が活発化すれば、地域全体が活発化していることを表しています。

## 3. 創年運動の推進

創年独特の活動があるわけではありません。ただ、創年として自覚した時点から、いわば創年の活動とすることができます。中高年が活動していれば、それは「創年活動」と言つても良いですが、実際は、創年として意識的に活動していくことが基本的な条件といえるでしょう。

全国生涯学習まちづくり研究会、および生涯学習まちづくり協会が、実質活動している部分では、今のことろ次のような、「創年宣言」「創年のたまり場」「創年市民大学」「創年学」などにかかる諸活動を

まとめて、「創年活動」「創年運動」と呼んで推進しています。

(1) 創年宣言

創年の活動を広く展開するためには、創年の意義に賛同する多くの同意者を集め拡大する必要があります。そのために個人の署名を集め活動を進めようとしています。「目標は100万人」としてあります。しかし、もしそれだけの人々が賛成するならば、日本が変わるはず、という人がいます。一人一人が自己を高め周囲のために働き、信頼の絆を広げようと/orする人が増えていくからです。そのためにも、組織的に拡大していきたいと考えています。例えば、創年宣言した仲間で「創年友の会」や「創年俱楽部」などを結成することによって、より本格的な活動が期待できるでしょう。

なお、創年宣言者は、別項で述べる「創年のたまり場（自宅開放）」を利用できます。これは、登録した人のみが利用できるようにすることによって、安全やプライバシーの保護に工夫しようとっています。

(2) 創年のたまり場

別項で詳しく述べますが、文字通り、「創年」が集い、活動の拠点になるものです。

(3) 創年市民大学

公民館等で開設される「市民大学」「老人大学」などは、学校教育法に基づかない、いわゆる成人の学習機会です。学習成果を地域に活かし地域の活性化をめざし、これを「創年市民大学」として、全国の市民大学と連携して、新しい発想による市民大学を開設するものです。創年市民大学は、市民が企画し、プログラムの企画、事業の運営、学習指導の体験など、創年の総合的な学習の場をめざしています。

(4) 創年学

創年にかかる関連分野の研究を体系的に進めようと、多くの研究者が、参加して研究を進めるこ

となりました。研究の一部は、聖徳大学学術フロンティアプロジェクトで「創年学」が発行されています。

(5) 創年ねつと

創年運動および会員の動きなど即時に情報が入手できるようにするために、インターネットで、つなぐものです。全国を瞬時に結ぶネットワークの構築をめざします。

(6) 季刊誌「創年」の発行

本誌は、各地のたまり場情報や、成果の発表の場となるもの

## 「創年」とは旬の時代と見つけたり

福沢諭吉は、「文明論の概略」という書の緒言に、「恰も一身にして一生を経るが如く一人にして両身あるが如し」と書いている。

ペリー来航（1853年）後の幕末と明治維新という二つの時代を生き抜いた福沢諭吉にとっては、この時期、古今未曾有の変革を味わった。

つまり、①将軍の「権力」から天皇が直接政治を執る「親裁」へ。②各藩の「分治」から中央の「一統政治」へ。③「鎖国」から「開国」へとそれぞれ体制が移ったからである。

このように価値観の違う二つの時代を一身にして、それぞれ（二代）の社会的役割を担いつつ生きることは、いかに難しいことかと述懐し、自らの体験からふと漏れこぼれた言葉ではないかと思うのである。

確かに福沢諭吉の時代「一身にして二代」は大変な時代であったと思う。しかし、われわれの時代はと見てみると（私は昭和11年生まれの当年満69歳であるが）「一身にして四代を経つつある」と言えるのではないか。

その「四代」とは【1】「あの忌まわしい戦争時代（戦前）」終戦を迎えた海外からの同胞たちの帰還。それによる【2】「極端な飢餓生活と戦後の復興時代」。日本の復興の力を見せ、岩戸景氣、神武景気など何回か経済の浮沈を経験しつつ【3】「高度経済成長を続けたバブルの時代」。そのバブルがはじけた【4】「経済の低成長時代と少子高齢化時代」である。

さまざまな経験を味わってきたが、社会の価値観は終戦を境にして百八十度転換した。そのことにより今日の日本は豊かで明るく、しかも人間味あふれる安定した社会として形成されつつある。しかし、この国にも避けて通れぬ問題がある。それが【超高齢化社会】の到来である。本来、長寿国とか福祉先進国などと言えば世界の人々から祝福され、羨ましがられる国であるはずだが、少子高齢化では如何ともしがたい。

ところで、まち研では「中高年」「熟年者」「老人」等の呼称を廃して前向きに「創年」と呼ぶことにしているが、「身にして四代のさまざまな経験を味わってきた同世代の仲間たちに打って付けの、機知にとんだ呼称である。

2001年6月1日に閣議決定された「高齢社会白書」によると、高齢者は決して社会的弱者ではない、むしろ「新しい『自立』した高齢者像をつくる潜在力を持つている」のだと位置づけている。しかもその中には年齢にかかわりのない社会活動参加が可能な社会を実現し、高齢者も生涯学習の対象とすることが明記されているのである。

まさにこの位置づけこそ、われわれ「創年」たちの特長はさまざまな社会の歴史の中で身を持つて体験をしていることである。それらの体験や経験を生かしつつ、人のため、世のために行動し、勇断をもって忠告、苦言、正論をはける旬の時代にいるのが「創年」ではないだろうか。

# 創年 の たま り 場

## 創年 の たま り 場　～お茶やコーヒーを飲みながら～

地域にとって最大の課題は、コミュニティが崩壊しつつあることです。近所の付き合いは少なくなり都会では隣の人と会話も無い団地など珍しくありません。男性の多くは会社づとめで、生活スタイルが異なることもあります。定年を迎えた人々は、すぐには地域に溶け込めないし、地域には居場所が無いという人も多いようです。

創年の活動には「時間」「空間」「仲間」という3つの「問」が必要であるといわれています。創年にはたっぷりと時間はあるものの、地域においてその他の、「空間」と「仲間」については、十分とは言えない状況です。

会社などの組織の中では、十分に人間関係を保持したけれども、地域においては、仲間づくりは得意でないという人もいます。さらにそうした仲間が集う場も身近には無いという実態もあります。そこで、創年が、創年らしさを發揮する機会として全国に「創年 の たま り 場」を設置することが考えられたのです。地域の身近なところで仲間が集う機会が増えればこれからコミュニケーション形成におお

いに役立つでしょう。その機会のある場が「創年のたまり場」なのです。

## 「創年のたまり場」のはたらき ～仲間とふれあいの場～

「創年のたまり場」は、地域におけるこれからコミュニケーション形成の拠点です。身近かなところに、いつでもあたたかい仲間がいて、行きやすいふれあいの場所があるとすれば、それが「創年のたまり場」というわけです。

創年が地域デビューする、いわば自己を生かすきっかけの場として、また、地域にかかわりを持つ契機としてのスタート拠点、それが「創年のたまり場」なのです。その特色は、何よりも地域の枠にとらわれず、様々な活動を自由にできることです。この創年のたまり場を全国に1万箇所の設置を目指そうという夢をもっています。

その結果、創年が地域で新たな雇用の場としても期待できるかもしれません。

さて、この「創年のたまり場」には、いくつかの機能が考えられていますが、その全ての機能を有しているわけではありません。そのいずれかの機能を、1つでも特色として果たすことができれば十分です。共通していることは、「地域の中のあたらしいふれあいの場」であるということです。

### ①地域の創年の憩いの場になること

- ・気軽に、お茶・コーヒー等が安く飲める
- ・趣味の料理や店の飲食サービスが楽しめる

### ②まちづくりに関心のある会員のたまり場になる

- ・気軽に立ち寄り仲間と語り合える

- ・会員に対する各種サービスが受けられる

③地域の人々の定例会場になる

- ・人々の会議や小グループの研修または発表の場になる

④地域の情報が集まる場となる

- ・各種会報等が置いてあり、情報サービスの拠点または発信の場になる

⑤地域の人々の作品発表の場や販売もできる場となる

- ・地域の人々の作品等が展示されている

- ・人々の作品や特産などが、販売されている

⑥観光の寄道拠点となる

- ・地域の情報誌や観光マップ等の情報資料が得られる

- ・観光客には地域情報のアドバイスが得られる

⑦地域の子育て拠点として、子育て相談に協力することができる

- ・創年の知恵で、子育て支援に協力する

- ・少子化社会への対応を意図的に考える場とする

⑧女性のチャレンジ支援の場となる

- ・女性の各種チャレンジに協力することができる

- ・女性のチャレンジ支援に関する情報・資料等が提供される

⑨子どもの居場所となり、生活の中の居場所づくりを支援する

- ・子どもの相談などを受けられる創年が、子どもの遊びや勉強を教える

・子どもを指導するボランティアと子どもが交流する場である

#### ⑩青少年が創年と交流する場となる

・青年が、創年にパソコンを指導するなど創年と青年の交流の場となる

#### ⑪地域のボランティアの活動拠点になる

・地域の介護ボランティア等に、協力支援する場を提供する

・創年のたまり場そのものが、地域活動におけるボランティアとなる

### 誰でもつくれる「創年のたまり場」とその形態

創年のたまり場は、誰でも設置することができます。

喫茶店など、店舗を構えている人は、それを地域に広く利用してもらえるように工夫することでもありますし、いわばお客様を増やすことでもあります。また、自宅を、地域の人々に開放したいと思う人もいるでしょう。それは創年として何とかして地域に役立ちたいという思いであり、大切にしなければなりません。創年のたまり場は、創年が日常的に地域に集まる場をもち、お茶やコーヒーを飲みながら、地域の話題や日常生活で起きた課題について話し合ったりできる「私的なたまり場」でもあります。

創年のたまり場の形態は、これまでのところ次のような形態で様々な機能を持つて実践されています。

#### ①喫茶店、レストランなどの飲食店

・地域の喫茶店、民謡酒場、スナック等で、関心のあるオーナーが多く実践しています。

## ②民宿・旅館・ホテル

・会員制度を活用した指定宿泊施設として推薦する場合もあります。

## ③薬局や書店などの店舗

## ④会社の事務所の一角

## ⑤無人駅や、寺院

## ⑥学校や幼稚園などの教育機関や自治会館等（生涯学習センター、公民館の一角など）

## ⑦個人の家（自宅開放）

・利用者は別途、会員制（創年宣言者）とし、予約を受けた会員に限定されます。

## ⑧空き店舗などが、「創年のたまり場」となつております。以下のような性格をそれぞれが有しています。

住民の団欒・憩いの場、観光（旅）の中継地、子育て支援の場、教育の場、世代間交流の場、地域の子どもを守る拠点、作品展示・販売の場、福祉ボランティアの拠点、外国人との交流の場、コミュニケーションビジネスの場、リタイヤメントビジネスの場などが、ここで展開されるはずです。

もちろん、これらを全ての条件を満たすことではありません。そのいずれかが特色として發揮できればよいのです。

## 創年のたまり場の条件　～会いたくなる人がいる～

創年のたまり場には、厳格な基準はありません。しかし、およそ次のようなイメージを抱いて展開しています。

しかし、あえて「創年のたまり場」の条件を言えば、そこには必ず「会いたくなる人」が存在すること

とも理想です。いうまでもなく「創年のたまり場」には、オーナーの人柄により、その存在理由があることが共通しています。一般的な、「創年のたまり場」の条件としては次のような点が挙げられます。

- (1) 創年のたまり場として一定の空間があること
- (2) 創年のたまり場として、一定の機能があること

(3) オーナーの人柄と必要な研修

- ・地域に関心を持つオーナーであること
- ・オーナー研修などの開催の機会には積極的に参加してみること
- ・全国生涯学習まちづくり協会の「地域アニメーター」「まちづくりコーディネーター」の資格があることが望ましい
- (3) 正式に登録し、認証されること
- (4) 地域に愛されるたまり場であること
- (5) 創年のたまり場の名称は、特色あるものに工夫すること（自宅開放の場合など）

### 創年のたまり場の特典　～あなたもオーナーになりませんか～

創年のたまり場を開設する人に対しても、何らかの特典が検討されています。もともと、誰かにメリストを与えてもらうという姿勢では、目的は達成しないでしょう。むしろ、地域に対して何ができるかを考えておくことの方が大切なのです。もちろん、オーナーの意思によつて、自由に運営されるべきものです。ぜひこの機会に創年のたまり場のオーナーに登録してみませんか。

全国生涯学習まちづくり協会としては、次のような特典があるとしています。

①創年のたまり場には、認証書、ステッカーも掲示されます。

地域の中で、創年運動に賛同する創年のたまり場として認証書が掲示されます。これはいわば地域に愛される店舗等を目指すところであり、表示によってそのことが意思表示されることなのです。

②全国的な会員の機関紙等で広報されます。

特に喫茶店や、民宿、旅館、ホテルなどの集客を目的とする事業所などには、申請によつて広報紙等で広くPRされます。

③各種情報が提供されます。

創年のたまり場として、協賛会社の資料、試供品なども含めて、各種資料や多様なイベントなどの情報が提供されます。

④自宅開放などの場合は、利用はわずかでも、ささやかな利用料を必須としますので、赤字にはなりません。

⑤その他、多くの特典により「創年のたまり場」が大幅に増加し、たまり場同志の交流も深まります。

# 創年（高年期）は何をすればよいか

1

## 将来に対するビジョンや 夢を失つたとき「老人」になる

高年期に入つても前期のあいだは、まだその実感が湧かないものです。子どもが大学生であつたり、結婚を迎えていたりで、何かと経済的な負担が多く、仕事を続けたいという気持ちが強くあつたりします。

それが、高年期も後期に入るあたりから、体力、気力が弱つてきていることを自覚するようになり、配偶者を失う人もあらわれはじめます。たいへん悲しいことですが、それが誰もが直面する現実です。だからこそ、今の生活を精一杯生きがいのあるものにしようとするのですが、何かのきっかけで将来

に対するビジョンや夢を失つたとき、いわゆる心身ともに「老人」になってしまいます。そのような時期に達したあとで、仲間と活動をはじめるのは、なかなかたいへんです。創年としての活動は、できるだけ早くはじめるということが大切です。

仕事や体力に自信を失い、地域での役割もないとなると、どうしても気力が萎えてしまいます。人が訪ねてくるということも減ると、寂しく消極的になつてしまします。なかには、もちろん忙しくてたまらない人もいるでしょうが、全体としては、社会的な集団から離れてしまうことになりやすいのです。したがつて、何らかの行動をすること、周囲と関わること、地域と関わることが大切です。それも、最初からむつかしいことをする必要はなく、ます

は、散歩するということからはじめればよいのです。

## 2 創年は、社会の大切な資源、 地域の重要な人材

全国生涯学習まちづくり協会では、かつて散歩を、登下校の生徒たちを見守るなど意味ある散歩にしようと、「ふるさと十字軍」と名づけた活動を積極的に展開したことがありました。

朝散歩をするときに、子どもの登校を見守る。朝

の10時には、1人きりの老人を訪ねてお茶を飲み、夕方、公園でひとり日向ぼっこをしているときは、子どもの下校を見守る。それだけで、朝の散歩や夕方の日向ぼっこの意味が、大きく変わり、「ふるさと十字軍」というわけです。

自分の周囲である地域の人、地域の子どもと関わることは、自分自身の生きがいにつながるばかりか、健康にも精神衛生にも、とてもよいのです。職場や仕事場に行くことがなくなり、地域の人や子どもとも関わることがなくなると、朝起きて挨拶を交

わすのは家族だけということになり、どうしても世界が狭くなってしまいます。

それでも、本人がそれでいいというのならば、もうどうしようもないというようなことになってしまいますが、それは社会にとつての損失なのです。その人が、それまでの人生のなかで培ってきた能力を、定年とともに埋もれさせてしまうべきではありません。なんとしてでも、その能力を地域社会のために生かしてもらい、青少年はその人の経験と知恵を継承していくかなくてはならないのです。

現在の高年者の方々は、社会生産に関与できる能力と意欲を、まだ十分に持っています。それを、平均寿命65歳から70歳時代と同じように、福祉の対象としてのみ捉えるべきではありません。夢のある社会建設の担い手として、地域の人的な資源として、重要な人材であると捉え直す必要があります。

そのことにより、本当に豊かな高齢化社会を築くことができるのです。

### 3 「高齢者村は、大切な博物館の多い村」

福島県に昭和村という高齢化率40パーセント近くの村があります。昭和村は、過疎の村でもあります  
が、心豊かな人々が静かに暮らす美しい村です。

私は、その昭和村の村おこしを手伝つたのです  
が、当初、村の人たちは、

「おらたちは、別に村おこしなんかいらんよ。年寄  
りばかりの村なのだから」

と、言つていました。それに対して、

「それは、とんでもないことです。立派な村にする  
のが、みんなの役目じゃないですか。村を出て行  
つた若者たちにも、帰るところが必要です。そのた  
めにも村に残つた皆さんの力が大切です」

と、言つたのですが、なかなか聞いてくれませ  
ん。

「何しろ年寄りばかりなのだから、何か新しいこと  
をやるといつても……」

「高齢者ばかりだから、弱気になる必要はありま  
せんよ」

「でも、村には年寄りがいるだけで、何の資源もな  
いのだよ」

「昭和村が日本一の高齢者村なら、日本一博物館が  
多い村だと思えばいいじゃないですか。ひとりひと  
りが自分をつくりがえる努力をして、ほんとうに博  
物館と呼ばれるにふさわしくなればいいのです」

そう訴えて、見事に村おこしに成功しました。

高年者の持つ情報というのは、磨けば磨くほど価  
値を持つてくるものなのです。それにもかかわら  
ず、私はもう高年者で役目を終わつたと本人が思  
込み、まわりも積極的に意見を聞いたり、頼つたり  
しなければ、そのまま埋もれてしまします。高年者  
が地域社会で活躍することは、高年者本人にとつて  
も、地域社会にとつてもたいへんメリットのあるこ  
とだという観点から、この高年者は社会的に何が出  
来るかというように、ひとりひとりを見つめ直して  
いく必要があります。

### 3 創年これからが人生の本番

創年は、自分のための行動を自分自身で決めることができ、自分の人生を創りだす、人生の本番といつてもよい時期です。

それまで自分の人生を活かし、磨き直すことにより、そのようなことができるようになります。分野については、どのような分野でもいいですし、どんなささやかなことでもいいのです。

人には性分があります。過去の経験の違いもあります。自分の体力とも相談しなければなりません。

創年は、これから自分が、周囲のために何が出来るかを考えなければなりません。そうして、なん

らかのかたちで、地域や社会に貢献するのです。

その創年のもつとも身近な活動の場が、「創年のたまり場」になるでしょう。公民館は、住民の学習の場であり、たまり場でもあるわけですが、「創年のたまり場」は、そのほんの一部を担っているといつてもよいでしょう。私的であり、個々の特色があ

るからこそ意味があるのです。

#### 組織から切り離される寂しさ、 それまでにない孤独感

これまで会社一筋、役所一筋、学校一筋、家事一筋というように、一筋人間でやってきた人は、それが終わったとき、これから一体何をすればいいのかと、迷ってしまいます。なかには、やつとこの日を迎えたと喜び、新しい自分をつくることに挑戦する人もいるでしょうが、その数は少ないといってよいでしょう。

自営業の人や芸術家などは、会社や定年とはあまり関係がないので、年齢については比較的無関心です。スポーツ選手などの場合は、現場を去る年齢が、サラリーマンよりも早く、年齢に関しては会社や役所に勤める人とは、また違った感覚を持つています。

## 新しいことに挑戦する

新しいことに挑戦することは重要ですが、気持ちの若さや体力が要求され、簡単なことではありません。パソコンにいち早く挑戦した人、次から次へと自分に課題を設定して挑戦していく人、カラオケなどでも、つねに新しい曲に挑戦していく人がいますが、それらの人は、尊敬すべき根性の持ち主であると言えるでしょう。

まったく新しいものに挑戦しなくとも、これまでのものに磨きをかけることでも、大きな向上があります。大工さん、植木職人、料理人など、手に技術を持つ人には、それまでのものに磨きをかけるというテーマに向いています。

手に技術はなくても、何かを研究してきた人、長い間ひとつのテーマを暖めてきた人も、創年になって、素晴らしい作品を残したり、新しい発見をしたりする可能性が大きいでしょう。

「青少年に文化を伝える」いうのも、創年の大切な使命です。これは、難しく考えないで、大人として出来ることを伝えればよいのです。しかし、すべてにおいて大人が子どもよりも優れているとは限りません。

その場合は、子どもに教えを乞うことがあってもよいのです。そのことが、子どもを育てることにもなるのですから。

それらすべての人をひつくるめて、リタイアしても、新しい自分でづくりに挑戦し、人生をリフレッシュしようとしている人は創年です。

創年という言葉こそなかつたものの、かつては地域に創年がずいぶんいました。

地域の人と語り合って、地域の行事に積極的に参加し、地域を支えた人が、ずいぶんいました。子どもがいたずらをしていると叱り、よいことをしているとほめ、地域の教育力の原動力となつたのも、そのような人たちでした。

それが、会社人間、役所人間が多くなり、都市整備が進んで、郊外に新しい住宅地ができるなどのことが重なり、横丁にご隠居さんのいる昔ながらの地域がなくなっていました。

他方、会社や役所に勤めた人は、戦後の復興から高度成長経済、生産の海外シフトを含む経済の国際化と、激変する経済環境に対応すべく、起きている時間の大半を組織の中で過ごしてきました。

それが、定年により、まさに突如として、それまでできた組織から切り離されることになつたのです。

た。

会社勤め、役所勤めの人間にとつて、この定年による環境の激変は、就職による激変と並ぶ大きな変化です。しかも、就職のときは、当然ながら年齢も若く、親や先輩など、相談する人、頼る人がいました。しかし、定年になるときは、年齢も重ねていって、体力、気力も落ち、定年後のことと相談できる人が、とくにいるわけでもありません。

さらに、決定的な違いは、新しい組織が待っていないという点です。就職するときは、学校というそれまでの組織とは別れることになりますが、会社や役所という、自分を受け入れてくれる新しい組織がありました。定年はどうかというと、会社や役所からは切り離されるだけで、定年後に所属する組織といつものありません。そのため、孤独感や淋しさというものが、それまでになかったほどの大きさで押し寄せて来るので。

しかし、それは一種の早とちりで、よく見れば、定年後に入るべき新しい組織はあるのです。

## 家庭に復帰し、 家族で地域という組織に入る

定年後に待ち受けている組織としては、まずは家庭があります。会社一筋、役所一筋で来た人も、それでも家族の一員ではあつたのですが、「家族の一員」と言えるほど、家にいなかつたのではないでしょうか。

定年後は、1日に3回、ほぼ毎日奥さんと食事をすることになります。それまでは、朝食は家族と一緒に手早くたべていたとしても、昼食は職場やその近くで食べていただしようし、夕食は仕事さきの人や仲間と摺つてきたことでしょう。つまり、家族との食事だけでも、1回から3回に増え、そのうちの1回(昼食)は妻と2人つきりになり、夕食も妻と2人つきりになることが多いのではないでしょうか。

これは、定年で組織を離れた男性のみならず、主婦にとつても劇的な変化となります。朝食というのは、子どもは学校に、主人は勤めに出る前の食事ですから、どうしても慌ただしいものになります。な

### 体の弱い人は、 健康になることも 地域への貢献になる

創年は、それまでの人生で蓄えてきたものを、地域に還元しようというところに、その特色があります。

人生で蓄えてきたものの成果を活用するということは、学習成果を生かすということであり、それはその後の人生を伸ばすということにつながります。

体の弱い人は、一生懸命生きて、健康になり周囲にできるだけ手をかけさせないようになります。自分にできることを、無理なく、精一杯やればよいのです。

自分が存在しているだけで周囲のために何かできる、あるいはその気持ちがあるだけでいいのです。

たとえ病にたおれても、周囲に微笑む気持ちをもちたいものです。

かには、食べない人もいるでしょうし、食べたか食べないかくらいの簡単なものでませる人も多いでしょう。

ですから、朝食のときというのは、家族で話しながらというよりも、必要なことを連絡しながらの食事というような感じになります。昼食となると、どうしてもちよつとした話をしなければ、場がもちません。夕食になると、どんなに短くとも1時間くらいはかけるでしょう。すると、それにふさわしい量の会話がなければ、食事もはずみません。

その昼食と夕食を、定年後は、ほとんど妻とともにとなることになるのです。その妻との食事の時間を充実させる話題が、はたしていまの会社一筋、役所

一筋の人たちにあるでしょう。  
家族の一員に復帰するということは、具体的にはそのようなことも含まれるのです。  
妻との共通の話題としては、まずは子どものことがあります。次に、たがいの親や親戚の近況というようなことがあります。  
それらの話題が一段落したあとは、共通の友人や趣味、ときには政治や経済、スポーツやテレビ番組などが話題にのぼるでしょうが、妻との食事は毎日ですから、やがてそれらも尽きてします。そのため、同じ話題を何度も繰り返すということになつたりするのですが、これは「老人」特有の現象です。

## そうならないためにどうするか

夫婦で、新しい組織に入ればよいのです。定年後の男性は、まずは家族に復帰し、その後に、妻や子ども、ときには親とともに、地域という組織に復帰すればよいのです。そうしたならば、夫婦との会話も、日々アクチュアルなものになります。話題といふのは、自分自身に大きくかかわることのほうが盛り上がります。抽象的なことよりも具体的で現実的、実際的なことのほうが盛り上がるのです。地域というのも組織ですが、会社や役所とは大きく異なる組織です。そのいちばん大きな違いは、縱ではなく横のつながりであるという点です。明確な目的を持って、上意下達で機能する組織ではなく、社会的連体を主目的とする、連帯していく組織なのです。

## 自己を高める努力をする

高年期の人には、それまで人生で培ってきた多くの経験があります。社会というものもよく知っています。

ます。地域で商店などを営んできた人は、地域のこととをよく知っています。そのような高年期の人は、日本の資源であり、そのような高年期の人が増えてくるということは、わが国は、かつてないほどの資源を有する豊かな国になるということもできます。

さらに、高年者が元気であれば、国家経済的にも有利であることはいうまでもありません。そのためには、気力を持つことであり、気力は自己を高める意欲を持つことによって、自然にもたらされます。自己を高めるには、いまよりもよい生活を思い描くことが大切です。そして、それを本気で求めはじめるとき、自己を高める努力が開始されます。これは、誰にでもできることです。

また、新しい自分づくりに挑戦するには、さまざまな学習方法に挑戦することが大切ですが、これも難しいことではありません。旅をするだけでもよいのです。

旅はさまざまなものを見聞し、視野を広げることができ、多くの出会いもあるので、生涯学習の1つ

## 新しいことに挑戦する

ボランティアは、誰にでもできるものだといわれていて、それはたしかにそうなのですが、成人男子のボランティアへの参加は、かなり低いといわざるをえません。ボランティアはすばらしいことであり、誰もが参加すべきと思っている人は多いのですが、いざ自分がやるとなると、自分はそのようなタイプではないと、いってしまいます。

それは、ボランティア活動をする人は、一般の人よりもはるかに人徳があって、ゆとりがあるからだと思われているからですが、実際にはそうではありません。人徳については、人のために何かをしようという気持ちがあれば、もうそれで十分なのです。

時間的なゆとりに関しては、普段の生活をしながら、ほんのちょっとしたこと、時間にすれば一分足らずで、ボランティア活動をすることができます。たとえば、買い物に行く途中の道で、子どもが夢中で遊んでいたとします。そのときに、「車に気をつけてね」と声をかければ、それはもう立派なボランティアであり、地域との関わりなのです。

あなたが、病気で寝たきりであったとしても、孫が危ないことをしているときに、「それは、危ないよ」と声をかければ、それも立派なボランティアなのです。人のために、自分にできることをする。それが、ボランティアなのです。

それとともに、ボランティアには、高度な専門性を有するものも多く、中には命がけで海外で活動しているものもあります。ボランティアは、誰でもできる簡単なものから、高度な研修を必要とするものまで、いろいろあるということです。

だということができます。それに、自分をリフレッシュさせる効果もあります。自己史を書くこともよいことです。多くの人は、創年に達するまでは、突き進むばかりの人生であります。しかし、ある年齢に達したとき、これまでの自分の歩ってきた道を、丹念に振り返ります。

来し方行く末という言葉があります。これは、源氏物語にも出てくる言葉で、過ぎ去った過去とこれから行く未来を言うわけですが、来し方をしっかりとみつめ直すことにより、自分の行く末、行くべき道というものが、よく見えてくるのです。人は、人生の節目ごとに、自分の来し方を見つめ直し、行く末をしっかりとみつめるべきなのです。

# 地域の医、薬、福祉の まちづくり拠点

—創年のたまり場とタウンヘルスケアステーション構想—

世界優秀女性企業家賞を受賞された谷口郁子さん。

タウンヘルスケアステーション構造は、

医、薬、福祉とまちづくりをまき込んだ総合事業として注目されています。  
この対談は、その谷口社長を迎えて企業のスタートや家庭、企業戦略に至るまで  
90分の公開対談されたものである。

これは、その一部、創年とまちづくりにかかわる部分を抜粋したものです。



創年活動を実践し、支援する若手女性企業家として、今注目される谷口郁子社長。創年はもちろん、「まちづくり」「福祉と教育」「地域ネットワーク」と、幅広い領域で会社を経営され、私たちの仲間であり、またリーダーとして活躍されています。

彼女の会社経営から、いろいろとお聞きします。 (福留)

全国で2万8千軒の薬局をターゲットに、メディスン・ショップ・ジャパンを

薬局にフランチャイズ・システムを導入したい

私は国内ではオーナー社長として3つの会社を、アメリカでは1つの会社を経営しています。アメリカのニューヨークにある会社は、医療と福祉の情報サービスを提供する現地法人でもあります。

私の会社の事業内容は、調剤薬局ケアプランを立てる介護支援事業所、病院とクリニックの経営コンサルタント業務の三つです。調剤薬局の今後の展開として、現在アメリカの会社で考えているのが、薬局のフランチャイズ・システムの構築です。

日本では、北海道から沖縄まで、薬局のないところはあります。しかも、いままでは町の薬局の

多くは、ありとあらゆる商品が並べられていて、ちょっとしたスーパーのようになっています。そのような薬局でも、じつは経営が難しくなりつつあるところが多いのです。

そういうなかで、アメリカ側から、そうした薬局をターゲットにフランチャイズを導入し、進めていくのはどうかとの話があり、いま私の会社の薬局部門は、その仕

事を手がけはじめました。「タウンヘルスケアステーション構想」というのは、それとはまた別に、それぞれの事業内容のスケールをアップした大きな仕事のひとつと捉えています。

現在、薬局というのは、日本全

国に約5万軒あります。

ただし、薬局のなかには、スーパーのような規模のものから、お父さんやお母さんが薬剤師で、1



谷口 郁子 (たにぐち ふみこ)

昭和34年10月10日生まれ  
イムノエイト株式会社代表取締役社長  
1982年 共立薬科大学卒業、昭和電工生化学研究所入所  
1989年 イムノエイト株式会社設立  
1993年 渡米イムノコーポレーションUSA設立  
1996年 株式会社イムノ設立  
1999年 介護支援事務所設立  
2001年 エンジェル株式会社設立  
2002年 世界優秀女性起業家賞受賞

横浜市横浜経済活性化懇談会委員、文科省科学技術学術審議会基本計画特別委員  
著書『あなたはどんな老いを生きたいですか』[アートアイズ社]  
『セールスノート』生活の友社「知っておきたいくすりの話」連載中

人が2人で運営している「パパママ薬局」まで、じつにさまざまなものがあります。

そんな「パパママ薬局」だけであり、日本全国で2万8千軒ほどもあり、そこに、フランチャイズ・システムを導入してもらおうと考

えていました。そういう薬局を、セブンイレブンのようなものに変えようとしているのです。

その薬局のフランチャイズの名称は、メディスン・ショップです。アメリカでは、メディスン・ショップ・インターナショナルで、日本ではメディスン・ショッ

プ・ジャパンです。これを、2004年にすでに設立しまして、2005年本年度より、本格的に動き出しました。

そんな、メディスン・ショップを、日本全国に増やしていくたいと思います。

なにかわくわくするようなメディスン・ショップを、新しい町づくりに必要な素材のひとつとして、加えていけたらいいと考えています。

私はこの事業を5年後に1000軒のメディスン・ショップ・ジャパンの誕生を目指しています。

**女性研究員第二号として昭和電工に、調剤薬局勤務を経て、イムノエイトを創立**

日本の代表的な女性企業家は、どのような学生生活を——福留谷口さんは、女性起業家として

ところで、谷口さんは学生時代、どのような過ごされ方をしていたのでしょうか。

**共立薬科大学を卒業後、女性研究員第1号で昭和電工に——谷口**

私は、共立薬科大学に通っていました。

薬剤師の資格を取得し卒業すると、東京医科歯科大学と昭和電工という会社が、私の卒論のテーマでもある新薬の開発に着手をしましたので、大学を卒業したあと、東京医科歯科大学には研究員として、昭和電工には社員として所属することになりました。

そうして、私は、卒業後に放射線（ラジウム）のアイソトープ（同位元素）を使っての研究について、一方では博士号を、一方では新薬開発につなげるという課題を抱えることになつたのです。

そうしたところが、25歳で結婚した私は、すぐに妊娠しました。私が扱っているのはラジウムのアイソotopeです。それが、どれほどの影響を胎児に与えるかについて、私は十分すぎるほど知っていました。このまま研究を続けるのなら、妊娠を継続することは不可能なのです。

結局、私は、お母さんになる道を選びました。

私は男女雇用均等法が施行された年に、それに則った形で昭和電工に入社した女性研究員第1号でした。しかしあつという間に結婚して、子どもができて、辞めざるをえなくなつたというわけですから、上司が残念がつたものです。

社会復帰した後に私が選んだのは、薬剤師としての仕事です。調剤薬局には、パートという形

で勤めることになりました。私は久々に社会の空気に触れながら、患者さんと対面しながらの薬剤師という仕事に、妙に新鮮なものを感じていました。薬剤師というのは、直接、患者さんとコミュニケーションを取りながら、薬を処方するという仕事です。それが私に、とても新鮮な感動を抱かせたのです。また、レジでお金を扱うこともありますから、同時に店舗を経営していくということに対する興味が沸いてきたのでした。

2年間の調剤薬局勤務のあと、イムノエイト株式会社を設立 薬局に勤め2年経つたころ、当時の医師会の会長で、私がかねてより尊敬もしていた先生から、「谷口さん、僕の薬局を作つてくれないかな」との声がかかりました。

それをきっかけに1989年に、私はイムノエイト株式会社という法人を立ち上げたのです。

社名のイムノエイトは、まずは免疫を意味するイムノロジーの最初の3文字をとりました。それはちょっととしたわけがあります。カタカナ3文字の会社は、将来株式公開のできる上場企業になりやすいという話が、当時は流れていて、カタカナ3文字の会社名は非常に人気があつたのです。そこで、「イムノ」を社名にしようと決め、そのあとに「エイト」とつけたのです。「エイト」とは、会社の8つの定款を表します。薬局の経営はもちろんのこと、病院の経営、介護関連事業、医療コンサルタント業務、輸出入業務、各種情報サービスなどが、最初から定款に含まれていました。

## 医療系の薬局と介護系の看護との連携による福祉活動を目指し、メディシン・シップと合せて、日本全国で10万軒の店舗を

日本の高齢化問題は、「ビジネスにも大きく関わってくるのでは

——福留

そのようにして薬局のチエーン展開をされ、さらに発展しようとされているわけですが、そういうなかにあって日本社会の高齢化問題は、谷口さんのビジネスにも大きく関わってくるのではないでしょか。

患者さんとの「振りかごから墓場まで」のお付き合いを目指している

——谷口

わが社のコンセプトは、各患者さんの時間軸にそつたサービスを提供するというものです。イギリスの社会保障の基になつたベーシック条約の中に、「振りかごか

ら墓場まで」という有名な言葉があります。そのように社会保障の基盤となつてゐるイメージというものが、つねに根底にあります。

たとえば、わが社は1989年に設立以来、我が社を利用してくれている患者さんがいるわけです。わが社は、その患者さんの15年間もの薬歴という貴重なカルテを預かり続けているのです。患者

さんは、薬のことからはじまって、体に関わるあらゆる相談などもさせてきていただいていますから、すべての症状をよく分かつたうえでのケアプランも、ぜひお任せくださいという立場を、取り続けたいと考えています。

——谷口

したがつて、高齢者の問題とい

うのは、私どもにとつても大変重要なテーマとなつていて、それには高齢の方たちの中には、たくさんの方たちには、たくさんの方たちには、たくさんの方もいらっしゃいます。そこで、これは飲んだほうがいいけれども、これは飲まなくてもいいですよというように、大渋滞解消に向けて薬の交通整理もさせていただいています。

患者さんの生涯に関わっていくと、いう仕組みは、まだないのですね。——福留

薬剤と市民との関係でいえば、谷口さんが理想とされる患者さんの生涯に関わっていくような仕組みというのは、まだないということですね。

——谷口

まだないのです。医療保険と介

医療保険と介護保険が切り離されていることは、大問題

——福留

護保険が切り離されてしまつては、これが一番大きな問題なのです。医療保険と介護保険が切り離されてしまつては、病院に通院したり、入院したりする場合には、医療保険で、それが在宅での治療に変わると、介護保険に変わるのであります。同じ患者さんで、使う薬も同じでも、かたや医療保険で支払われ、かたや介護保険で支払われるという奇妙な現象があるわけです。

これについては、政策現場でさら混乱をきたしています。この問題は、今後おそらく大きくなり上げられていくことになるでしょう。

それは、「学習のポートフォリオ」のようのですね

——福留

いまこれから学習に、学習のあり方について、ポートフォリオ（紙はさみ）という考え方が浸透

しつつあります。これは、あなたはこれまでどういう学習をしてきましたか、今後どういう学習をしていくつもりですか、などの項目が書かれた小冊子に、ずっと記録していくというもので、「学習のパスポート」のようなものです。

そうすることによって、学習歴が、よく分かるようになります。  
そういうものを、健康ケアプランにも導入していく必要がありそうだですね。ただこれを展開していくためには、それに関わる人の質や量というものが、相當に必要になつてくるでしょうね。

ポートフォリオは絶対に必要だが、実施はたしかに大変

——谷口

ケアといふものを考えたとき、各個人のポートフォリオというものは、絶対に必要だと考えていま

す。しかし、それを実施することは、ある程度の専門知識と具体的な基礎知識なりを、子どもでも大人でも、老人でも、共通にもつていかなければならぬと思います。

メディスン・ショップと介護支援事業所のほかに、企業とのタイアップも

——福留

谷口さんは、全国5万軒の薬局のうち、2万8千軒をターゲットに、メディスン・ショップというフルチャイズを目指しておられるわけですが、それと同時に、たんに薬を扱うだけではなく、介護ケアプランに関わるようなシステムづくりも必要ということですが。

医療系薬局、介護系看護事業所と連携の新医療福祉活動を

——谷口

メディスン・ショップと介護支援事業所を合せると、日本全国で

10万軒を超すことになるかもしれません。それに、いまセントケアという会社と、ターゲットアップしています。

具体的には医療系の薬局と介護系の看護事業所とが連携し合うといふ新しい形の医療福祉活動を目指しています。

こうしたタイアップというのには、日本でしか見られません。と

## 日野原先生は、75歳から「新老人」、85歳から「真老人」 福留先生の「創年」は、理解しやすい

老人力、新老人力、年輪力という言葉を、聞かれたことは

とについて、業界などでも話題になることはあるのでしょうか。

中国で「老」というと立派な人

——福留

日野原先生は、75歳から「新老人」、85歳からを「真老人」と

——谷口

老人力とか、新老人力とか、年輪力などという用語をお聞きになつたことがあります。こういうこ

りです。中国では、「老」という字を用いたり、山田ば100%保険を持てるのです。その点を、世界は非常に注目しています。

それが、とくに戦後からマイナスイメージが強くなつて、老人とは呼びにくくなり、高齢者とかシルバー、高年者、熟年などというように、言葉を変えていることが多いですね。

日本でも、臣下の長や重要な役職に、家老とか老中というよう

に、老の字を用いましたし、山田老というように老をつけるときは、敬意を表しましたね。

日本でも昔は「老」には敬意が込められていた

——福留

日本では、65歳以上を高齢者と呼びますが、これには理由がある

が、中国で「老」というと、立派な人という意味があり、敬意をもつて使われるようですね。

日本でも昔は「老」には敬意が込められていた

——福留

——谷口

「老人」という言葉には、あまりよいイメージがないために、高齢化などと言つてみたりしています

日本では、65歳以上を高齢者と呼びますが、これには理由がある

のです。私が生まれた昭和35年には、100歳以上の方は28人しかいませんでした。ところが、2005年現在、100歳以上の方は2万596人もいらっしゃいます。昭和35年、いまから45年前の平均寿命は68歳でした。それが現在では、日本人女性の平均寿命は85歳を突破しています。昭和39年に老人保険法というのが制定されましたが、その時に老人としての年齢を65歳に設定したのです。

ところが、いまやどうでしょう。日本は長寿ナンバー1の国になりました。日本女性の平均寿命は85歳、平均健康寿命でも78歳です。男性の場合で、平均健康寿命は72歳です。ということから考えると、65歳で高齢者とするのは、あまりにも若すぎるのではないかということで、私の敬愛する聖路

加病院の日野原重明先生は、「新老人」という言葉を用い、その年齢を75歳に設定されました。さらに先生は、「真老人」を85歳からという運動もされていて、私もまたそのお手伝いをさせていただいている。

その日野原先生ご自身がすでに94歳にもなっていますから、日野原先生が提唱されたそのお手伝いをさせていただいている。

私自身は、福留先生が提唱されている「創年」という言葉の方が、イメージとしても理解しやすいように思います。

**創年が頑張れば、町全体も活性化する  
創年の人は「創年宣言」、町は「創年の町宣言」を**

思わず「創年」という言葉が出て、ずいぶん喜ばれたのがきっかけになりました。日本女性の平均寿命は85歳、平均健康寿命でも78歳です。男性の場合で、平均健康寿命は72歳です。ということから考えて使ったのは、渋谷で開かれたある女性大会に出席したときです。会場で私は、「これからのみなさんはまさに

と、その時は何気なく「」を突いて出た言葉だったのですが、大会に参加していた多くの女性のみなさんは、私のその発言に賛同していただきました。

いまの日本では、老人というどうしてもイメージが悪くなりますが、

私は、65歳はまだまだ生産年齢

野原先生がイメージされる老人と、一般のかたがイメージされる老人との間には、かなりの開きがあると思われます。

だと規定してしまっては、かえって社会の活性化を期待できるのではないかと思うのです。

**男性は10年、女性は5年のスパンで、ものを考えるのが適切**

——谷口

これは学説にもなっていることですが、男性の場合は10年スパン

でものを考えられるのに対し、女性の場合は5年スパンが適切なのだそうです。ですから、学生なら、5年後の25歳の自分についてなら考えられるということです。そして、25歳になつた時に、今度は30歳の自分を考えることができるというわけです。私も、それで十分ではないかと思っています。

**私はいつも、実年齢の7掛けでいきましょうと言つている**

——福留

たしかに男と女とでは違つかもしれません。男の顔は履歴書だが、女の顔は請求書だなどといった話もあるくらいです（笑い）。

私はいつも、実年齢の7掛けでいきましょうと、言つています。50歳なら7掛けで35歳、60歳なら42歳と思えばよいのです。

**創年は生産年齢ということです**

から、創年が多い地域というのではなく、とにかく自分は、活性化できる地域、活気ある地域ということがいえます。

年齢云々ではなく、とにかく自分がこれから地城に生かそうという発想を合わせて、創年ということですから、重要なのは意識なのです。たとえ寝たきり状態になつてしまつても、そういう意識をもつだけがよいのです。

無理やり、社会参加ですよ、病気なんかになつていないので頑張つて活動しなさいなどと言つているわけではありません。自分に合うレベルでやればよいのです。これをぜひ理解していただきたくて、私は、「創年運動」なるものを設定したのです。



## 年と子どもの町宣言」を

——福留

創年の私たちは、「創年宣言」をしていこうと考えています。こ

れは年齢には関係ありませんから、30歳でも40歳でも、気づいた時点では始めるべきということになります。

創年宣言をしてもらうのに適した年齢ということでは、男性と女性で2つのパターンがあるように思います。

女性の場合、一般的には40代後半、子育てが終わった頃です。専業主婦として子育てに取り組んできた女性にとって、子どもが巣立つたあとというのは、多かれ少なかれ、空虚感で押しつぶされそうな精神的にショックな状態に陥りやすいといわれます。

生きる気力を失っていくという

ケースが、圧倒的に多いのです。それも、高学歴の女性ほど陥りやすいといわれています。

もう1つのパターンは、団塊の

世代の男性です。能力もやる気もあり、これまで日本を支えてきた彼らは、数年後いつせいに定年を迎えることになります。多くの方は、まだまだもつと今の仕事を辞めたあとも、現役でいたいと思っています。

また、一時的にゆっくり過ごした人たちも、65歳も過ぎてくる頃には、またなにかをやりたくなってくるはずですし、なにかしなければいけない、このままでぼけてしまふなどと思いつめらる始めてくるのではないか。

さらに、統計的には女性の方が長生きをしますから、夫に先立たれたあと残りの人生をどう生き

かという問題が、また生じてきます。そのように、それぞれのエイジングのなかで、必ず課題というものは出てくるものなのです。

ですから、なんでもよいのです。なにかをきっかけに、そうして自分の思いに気づいた瞬間こそ、創年としてのスタートなのだとすればよいのではないかと思つています。

しかし、創年として自分の生きざまを、社会に生かすには後輩に自分の文化をどう伝えていくかということでもあります。そう考えた時、創年に対峙する青少年の存在がどうしても必要になってしまいます。

鹿児島県の志布志町では、創年の町宣言をしたもの、これでは足りないということで、子どももひつくるめて、「創年と子どもの町宣言」を行いました。コンセプ

トは、「志布志町は、自分の力を地域に生かします、生きがいをもつて頑張りましょう」というものです。

### 創年が頑張りはじめれば、町も農村も活性化する

全国に生涯学習を宣言した都市だけですでに170にものぼるといわれています。生涯学習の町といふのは、住民ひとりひとりが生きがいをもつて自分の生活を豊か



福留 強 (ふくろめつよし)

聖徳大学生涯学習研究所 所長、教授  
NPO法人全国生涯学習まちづくり協会理事長

国立社会教育研修所教務課長、文部省社会教育官、を経て、平成5年九州女子大学教授、生涯学習研究センター所長等を歴任、現在にいたる。

平成元年、全国生涯学習まちづくり研究会を設立。平成8年、まちづくりボランティアの養成として「地域アニメーター」「まちづくりコーディネーター」制度を提唱し確立。

また「全国子どもをほめよう研究会」設立したほか、「子どもが主役のまちづくり」などを実践する。平成15年度には、韓国と第1回韓日生涯学習まちづくりフォーラム(韓国大田広域市)を実現させた。全国のまちづくりに協力し、指導した自治体は約900。自治体のまちづくりに影響を与えていている一人といわれている。平成11年、全国生涯学習市町村協議会の設立に奔走し、現在はその代表世話を。千葉県生涯学習審議会会长など大学外の役職も多い。現在、「創年」活動及び「創年のたまり場」を全国的に展開中。著書として、「今こそ市民改革を」(文芸社)、日韓で「生涯学習まちづくりの方針」(日常出版)や「子ほめ条例のまちは変わるか」(イザラ書房)等、多数。

にするために生涯学び続ける町であるということです。住民が元気になることで、町全体も活性化して元気になるという発想なのです。

この運動も、スタート以来かれこれ20年経ちますが生涯学習宣言都市の実態は、これからというところです。

私たちは、「生涯学習の町」の構想を考えています。今後どの町

にも中高年、いわゆる増加する「創年」によるさまざまな形での地域貢献が、期待できると思うのです。農村にだって、創年たちによつて活気が戻れば、別の意味での発展もまた期待できるというものです。

さらには、市民大学というものもあります。これは学校教育法には基づかない、いわゆる公民館などを利用して市民講座を開設し、

そこで勉強会なり研究会なりをするというものです。

この市民大学のなかには、老人

大学とか高齢者大学などというものがあります。それを、今度ある町で、創年市民大学とか創年大学などに名称を変えたところ、イメージがガラリと変わってきたとの報告がありました。

そこで、こうした市民大学を、全国的に増やしていくこうといった運動も出てきているのです。

創年たちにとっても、市民大学はニーズにぴったりあります。市民大学といつても、勉強や研究ばかりではなく、創年たちが自然に集まって、憩い、話し合う場があるということは、重要なのです。つまり、市民大学＝創年たちのたまり場ということでもあります。

## タウンヘルスケアステーション構想 横浜市との取り組み

介護保険施行と同時に、商店街に医療と福祉の拠点構想を立ち上げた

介護保険が施行された2000年、わが社は「タウン

ヘルスケアステーション構想」というひとつ

のプロジェクトを立ち上げました。地域に根付いた古い商店街に、医療と福祉のスポットを据えようというもの

です。

そこに入っていただけの、医療保険といふかたちで診療報酬をいただいている薬局やクリニックといった医

療系のサービス業と、介護保険報酬をいただいている介護支援事業所や入浴サービス業、訪問介護事業などが対象となります。

### IMMUNO GROUP

関東一円を中心として医療・福祉のトータルサービスを目指し  
世界に向けて飛躍しています。

保険調剤チェーン薬局  
介護事業・福祉用具販売事業  
病院・クリニック・調剤薬局の経営コンサルタント業務

イムノエイト株式会社  
イムノコーポレーションUSA

株式会社イムノ  
エンジェル株式会社

代表取締役 谷口 郁子（第48回卒業生 共立薬科大学評議員）  
才属：本社：日本 東京都港北区大森西2-1-10 TEL 045-504-2938  
新潟支店：新潟市中央区西堀通1-1-10 TEL 025-222-1111  
東京営業所：〒105-0003 東京都港区西新橋1-4-12ルート  
西新橋ビル2F TEL 03-3507-8611 FAX 03-3507-8612  
E-Mail office@immunc8.com



横浜営業所：〒230-0025 横浜市鶴見区市場大和町5-24  
TEL 045-504-2871 FAX 045-504-2938

東京営業所：〒105-0003 東京都港区西新橋1-4-12ルート  
西新橋ビル2F TEL 03-3507-8611 FAX 03-3507-8612  
E-Mail office@immunc8.com

現在、古い商店街や、どことなく寂れてしまつてゐる商店街には、空き店舗などの空間が、数多く存在してゐます。そこでサービス業でもいいじやないかと空店舗の活用を考えたのです。わが社は、医療や福祉関係の業務が中心です。それも、「揃りかこから墓場まで」というように、1人の患者さんを生涯ケアしていく形を理想としています。となれば、当然薬局を中心とした総合病院にしていく必要があります。そのために、単科のクリニックを誘致していくことを考えたのです。

そこでお子さんと高齢者に、同じケアを与えることによって、ふつうなら、つねにケアを受ける側でしかなかつた両者が、やがてお互いに、ケアをし合うようになつていくことがあります。

は、空き店舗などの空間が、数多く存在してゐます。そこでサービス業でもいいじやないかと空店舗の活用を考えたのです。わが社は、医療や福祉関係の業務が中心です。それも、「揃りかこから墓場まで」というように、1人の患者さんを生涯ケアしていく形を理

想としています。となれば、当然薬局を中心とした総合病院にしていく必要があります。そのために、単科のクリニックを誘致していくことを考えたのです。

ですから、まずはこの縦割りの仕組みを外すことからしなければなりません。

ということで、現在、お子さんと高齢者を、デイケアのなかのある時間なり、ある部分だけ一緒に過ごさせるという試みを行つてゐるところです。たとえばコーラスをする時だけ一緒になるとか、一緒にカルチャーをやる時間を設けるなどということをして います。

## お店のほかにも、学校、お寺、病院、個人宅などが、 提供を申し出でくれているたまり場

介護いらずの元気な創年の方が増える、それがいちばんいいこと

——谷口

りました。はたして国民は、介護保険を利用するだらうかという議論もありました。

今回の介護保険報酬の改定のなかで、厚労省は介護予防にも報酬をつけましようという案を導入しました。介護保険制度についても、当初からいろいろな議論があ

り上げられて いたのです。

このままでは、介護保険はパンクしてしまう。医療保険だって危ないのに、その上介護保険までも危なくなれば大変だということです。今度は予防の方にも報酬をつけましょうということになつたのです。つまり、要介護認定を上げないものについて、報酬を出すという形に変えていったのです。

ですから、これを機会に、創年としていつまでも現役として、介護なしでも大丈夫との自立の精神に立ち、むしろ予防していく方に力を注いでいただきながら、結果的に一番よいことではないでしょうか。

タウンヘルスケアステーションも、「たまり場」の提供につながるのでは——福留

「たまわないので」と、そこに行けばいつでも仲間がいる、そんな場所があるのは幸せにつながるとの考えから、生まれてきたものです。いつもでも仲間に会える場所というのは、行きつけの場所があるということでもあります。必ずそこに仲間がいるということが条件になります。

「創年たまり場」として、はじめは喫茶店的なものがあればいいと考えていたのですが、そのうちに他にもいろいろあるということに、気がつきました。たとえば、旅に出ても、ホテルでも民宿でも、ちょっととした一角さえあればいいと考えたのです。

そんな暖かい雰囲気が、日本全国どの町にもあつたら、どんなにいいだろうと思うのです。

それに、そういうところというのは、自然にたまり場にもなつてきますし、ある意味ではボランティアの出撃拠点のようになります。そこで、さまざまな情報が

ただいてかまわないのですが」といった提案まで、出されたのです。そのように考へると、場所というものは実にたくさんあることに気がつきました。

そんなふうに、自宅でも店でもなんでもいいのです。そういうところが、町ごとにあれば、子どもが危険な目にあつた時に駆け込む場所にもなるだろうし、散歩の時に少し休ませてもらうなどということも、できるのではないかと思うのです。

「創年たまり場」の発想は、創年たちがいつも輪になつていると

交換されれば、子どもたちの防犯にも役立ちますし、なにかをテーマに話し合うといった、会議の場にもなるでしょう。

というわけで、谷口さんのタウンヘルスケアステーション構想というのも、ある意味では、この「たまり場」の提供という部分につながつてくるのではないかと思うのです。

学校、お寺、病院、個人宅など

人が集まる仕掛けづくりが大切、人が集まれば活気が出てくる  
まずは、人が集まるということの仕掛けを作ることが大切です。人がいるだけで活気は生まれてくるわけですから。たまり場構想に、谷口さんのケースが大きな部分も占める可能性が

—— 谷口

が、提供を申し出でている今では、たまり場としての提供を申し出でてくれるところも、けつこう増えてきました。お寺や、病院までありました。

結局のところ、場所はどこであろうとよいのではないかと思っています。重要なのは、そこにいろいろな人たちが集まっている、ということだからです。

「創年のたまり場」構想に、谷口さんのケースが、かなり大きな部分を占めてくる可能性を感じています。

ですから、たまり場構想と、谷口さんの構想とが、どううまくタイミングアップしていくかについて、今後さらに具体的に考えてみたいと思います。

平成17年5月16日 聖徳大学生涯学習社会貢献センターにて公開対談

—— 福留

タウンヘルスケアステーション  
福留



# 全国に

## 「創年のたまり場」をつくるう

### 全国に続々誕生「創年」のたまり場

今、各地にぞくぞくと創年のたまり場が、増えています。

全国生涯学習まちづくり協会の会員だけでなく、あつという間に18都道府県自治体に誕生しました。創年のたまり場には、一定の決まりがあるわけではありません。それぞれの特色を生

かしてさまざまな機能を果たしています。これらの方々はすでに地域の人々の生活の中に溶け込み、人々に安らぎと楽しみと、活気をもたらしているようです。定着しているものも多くあります。それらの、事例のなかから各地の代表的なたまり場を紹介しましょう。

#### ■音楽のたまり場

##### 居酒屋かりゆし（鹿児島県与論町）

民謡酒場として、観光客は必ず訪れる店です。

全国的にも知られる「かりゆしバンド」のボーカルでもあり、店のマスターでもある田畠さん。かつては与論島の社会教育主事としても活躍していた人です。

店内は観光客と島の人々でにぎわい、全国から多くのリピーターが集うのも特徴です。

田畠さんは作曲も多く手がけていて、NHKの歌謡ホールでも歌われている歌もあります。年に1回は東京でコンサートを開催していますが、毎回、ほぼ満席という人気ぶりです。

青い空、美しい海、そして夜は美味しいお酒とかりゅしバンドの生演奏で、時間を忘れてしまいます。開店時間を客は待ちきれずにやつてくる。



■居酒屋かりゆし  
OPEN 19:30~24:00  
1ステージ 20:30~  
2ステージ 21:45~  
3ステージ 23:00~  
各約40分ずつ  
定休日 水曜日  
TEL/FAX 0997-97-4432  
鹿児島県大島郡与論町茶花  
29-1

## ■食を学ぶ地域のたまり場

### オーガニック・ごうだ（宮崎県綾町）

宮崎県の綾町は、全国的にも自然を活かしたまちづくりの成功事例で知られるところです。宮崎から車で約30分。いわば郊外にある田園都市といつても良いところです。近年、全国的なまちづくりブームの中で、全国的にも人気の町並みであるといつても良いでしょう。その綾町を訪れる人は多く、なかで

も人気がある店。「オーガニック・ごうだ」です。

そのオーナーの郷田美紀子さんは、薬剤師ですが、食にこだわる研究をしている人です。薬膳料理が得意で、美人であり人なつっこさが人気で予約なしには入れないほどです。オーナーの彼女は、緑のまちづくりを進める町一番の自然派。料理も食事の間の指導もまさに栄養研究をたのしむという感じです。彼女の名刺には「百姓」とあるほど、農業にこだわっています。観光地「綾」で「おもしろい、ユニークな店はありませんか」と尋ねると黙つてここへ連れて行ってくれるでしょう。オーナーとのまちづくり論や、自然保護などの話は尽きないところです。一度「オーガニック・ごうだ」を訪ねてみましょう。

## ■お話をジャンル・領域

〈食〉食生活、食の安全性

〈農〉農的ライフスタイル、有機農業、生活文化・

農村文化

〈健康〉健康食、生活習慣病、健康法

## ■メッセージ

最近、安心して食べられる食材への関心が高まっていますが、私はそれを求めるときに優先されるべきものは「共生の理念」であるうと思います。田んぼや畠、その周りに生きる無数の生き物たち。私たちは彼らとこの土地（宇宙）と共有し合いながら命のめぐりの中で生きています。昔の日本人は、山川草木への謙虚な祈り、周りの命への優しい心配りを持っていました。それが戦後の経済発展や効率優先の考えの中で失われたのです。「安全な食」は、この失った理念の復活を経て、手に入れることができます。本当の豊かさの価値観を変え、命の尊さをみつめた「こころの農の時代」が求められていると思います。大きな深い森、流れいく水のせせらぎ、田を渡る風、そしてそこに息づく多くの生き物。田舎ももつと優しくなれそうな気がしてなりません。「自然」や「安心」や「本物」は優しい環境の中で生まれ、育まれていくのです。

また、未来を託す大切な子供たちに、私たち大人は豊かで美しい自然と環境を残すと同時に忘れ去ら



### ■ オーガニック・ごうだ

宮崎県綾町南俣303-4

TEL 0985-77-0045

FAX 0985-77-2238

れている食の知恵もしつかり伝えたいと思います。わが国が、明治維新、文明開化と発展していく中で、長い歴史が育んだ伝承の文化は影をひそめてゆきました。そして、戦後、極端な欧米化が進み、からうじて残っていたものも姿を消してしまいつあります。食文化もその一つです。日本人は大切な生きた知恵を見失ってしまいました。やがて大人になる子供たちが、どうか昔の知恵を大切に、未来と生きていく今を大切に、この星の多くの命を大切に生きてくれますように、優しく強い大人になりますよううにと一人の母親として心から願っております。

## ■地域の文化を起こす食のたまり場

### ラモヴェール（富山県福光町）

富山県の福光町にあるフランス料理の店ラモヴェール。福光の町外れの田んぼの中に立つ白い瀟洒な2階建ては、土地の人々にとつてはあこがれの店であります。シェフの岡田隆史さんは地域の文化センターというほど地域を考える人です。いつも、まちと自然を大切に思い、それをメニューに反映させています。遠くに立山連峰を望む店の周辺は田園の美しさを堪能できる場所でもあります。ラモヴェールはミニコミ誌の発行や、講演会、ミニコンサートにトークショウなど、楽しみのある店で親しまれています。

旅の途中では絶対立ち寄りたいお店で、岡田さんと会うためにわざわざ富山に行く人もいるぐらいです。いわゆる有名人を訪ねる店は、それだけ話題性も多いということかもしれません。

### 嘉例川駅（鹿児島県隼人町）

はやとの風という特急列車停車するという鹿児島県隼人町・JR肥薩線嘉例川駅は、九州最古の木造駅舎で、無人駅です。ここは今ではなぜか1日数百人が訪れるという人気駅となっています。人口わずか200人のこの集落は、まちおこしの全てが実践されているという地域とができるところで

## ■地域全体が創年のたまり場



※ホームページに大量の情報あり  
(以下のその一部)  
富山県西砺波郡福光町川西1120  
Tel: 0763-52-0878  
Fax: 0763-52-0900  
E-mail: lamo1120 @ nsknet.or.jp

す。その駅がいま地域の中心で「創年のたまり場」として機能しています。



■嘉例川駅

九州での話題のこの駅の名物地域のアニメーターが作った駅弁当、「百年の旅」はJR九州でも3指に入る人気です。駅前のみやげ館・ふれあい館は、地域の人々が設置した日曜市で、多くの客であつという間に売り切れるお店です。これは地域の創年の手づくり品が売られているからです。生産が必要に追いつかないほどの売上で、地域の人々に生きがいでしょ。特産品もいっぱいあります。温泉バスも住民の力で走っています。この駅は地域全体が、「たまり場オーナー」で注目されるところです。

ほろよい酒と家庭料理『おかめ』(沖縄県名護市)  
沖縄北部地域(やんばる)の中核都市で「小さな世界都市づくり」をめざす名護市街地のシンボル「ひんぶんガジュマル」近くにお店がある。  
訪れる人たちと地域の人々の繋びをしてくれるのがオーナーの津田愛子さん。(在りし日のミス名護さくらの女王とか)

沖縄地区の「創年のたまり場」づくりの中心的存在です。

津田さんはまわりから「母」と呼ばれる存在で、名護市のまちづくり委員でもあり積極的にまちづくりに参加している人です。

「おかめ」は仲間の女性メンバーのたまり場でもあり、店内の雰囲気も肌の温もりを感じさせて居心地は抜群。

仲間が三味線(さんしん)を持ち込み民謡酒場に変身するときも多い。これが地域の人々から親しまれている空間といえるようです。

## ■地域の人々が朗らかに集う

お手伝いには地元の大学生が応援に駆けつけ、働きながら地域のことを学ぶ場にもなっています。

津田さんの自慢は「これまで育つていた学生たちは自分の娘のように今でも付き合いが続いている」ことです。沖縄そのものが「創年のたまり場」だと自負していると満足そうに応えてくれます。その笑顔が何ともいえない「創年の輝き」を見せているようです。



### ■ ほろよい酒と家庭料理 おかげ

沖縄県名護市大東1-2-19  
(Tel) 0980-52-4920  
(休) 日曜日  
(営) 17:00~23:00  
(L.O) Food 22:00  
Drink 22:30

りアイスクリームとソフトクリームの製造、販売をしているお店。住宅街にあるログハウス風の建物とかわいい手作りの看板が目印です。

森の響は、オーナーの鈴木愛一郎さんが脱サラした時に仲間と手作りで建てたお店です。オーナーをはじめ、スタッフも、市の環境基本計画づくり、都市計画への参加、全国生涯学習まちづくり協会が認定する「まちづくりコーディネーター」「地域アニメーター」などの資格挑戦など、社会とのかかわりに少しでも役立とうと、強い想いで地域活動している仲間です。

今年では、食文化、環境都市づくり、広域ネットワークのたまり場として、また、青少年の悩み相談所として地域社会に溶け込み地域の人々に支えられて運営しています。

今年は、近隣都市の廃校で様々な活動をしている仲間たちと夜なべ談義をすることになつており、広域ネットワークの創年のたまり場を10店舗にすることを目指しています。

### ■ 仲間と手作りで建てたお店

【森の響】（北海道苫小牧市）  
北海道苫小牧市「森の響」は、完全無添加の手作

ろん手づくり。



### ■森の響

北海道苫小牧市新開町1-2-1  
TEL 0144-51-2251  
FAX 0144-51-2252

## ■地域のレストランと展示場

### 手づくりの店 「ザ・ワークス」(千葉県白井市)

ワークスは、店舗ができる前から「創年のたまり場」として作つたといわれるほどユニークなお店です。「ユニーク料理」の最高はなんと「大人のお子様ランチ」。お子様ランチのように小さな旗もあり、庭には四葉のクローバーがついていました。奥様が食材は全て無農薬をつかつたもの。デザートももち



### 手づくりの店

#### 「ザ・ワークス」

千葉県白井市富士186-2  
TEL 047(441)7784

若い女性たちにも人気のメニューがいっぱいの雰囲気。一度いってみたいところです。千葉県下第1号の「創年のたまり場」として他のたまり場をリードしています。

レストラン部門とは別に、物販の部門もあり、地域の人々の作品を売っています。部屋の一角には、数名の人々が話しあつたり、作品をつくつたり子どもに絵本を見せたり、様々な活動がみられます。トレイは「シンデレラーム」と呼ばれており、お客様の人気を集めているようです。清潔なお店で、地域の人々の作品も見られる上に、利用される空間もあり、いわば理想的なたまり場になつています。

## ■大学の生涯学習センター

### 聖徳大学生涯学習社会貢献センター

JR常磐線、松戸市は、東京上野から19分。その駅前にそびえたつビルは、聖徳大学生涯学習社会貢献センターです。全国に先駆けて社会貢献センターとしてスタートしましたが、この中の6階がセンターの拠点となつており、この一角に「創年のたまり場」が設置しております。同大学の生涯学習同好会の女子大学生も大勢がたむろする場所だけに結構華やかなたまり場として當時、創年の活動が見られるところです。ここには、本誌を編集する全国生涯学習まちづくり研究会の本部事務局があり、その意味では全国の中心となっています。会員ならずとも一度は立ち寄る価値があります。

■聖徳大学生涯学習  
社会貢献センター  
千葉県松戸市松戸1169  
聖徳大学生涯学習社  
会貢献センター 6F  
TEL 047(369)5665

## 聖徳大学生涯教育文化学科

松戸駅前に瀟洒な70メートルの高層ビル。おそらく全国でも駅に最も近い生涯学習の拠点、全国初の生涯学習社会貢献センターです。ここに全国の生涯学習まちづくりの拠点があることをご存知ですか。この所長が、全国生涯学習まちづくり協会理事長であることは広く知られるところですが、ここに新たに大学の新学科「生涯教育文化学科」が設置されることになりました。

今、学生募集中ですが、やはり気になりますね。読者にとっては魅力たっぷりの内容だと思われますが、はたして現代の女子高生には、どのように理解されるのでしょうか。学生は集まるのか、就職は大丈夫なのか。

### 保育の聖徳から、生涯学習の聖徳へ

聖徳大学は、最近では教員の合格者数、幼稚園、保育所等の合格率は、関東ではトップの位置を占めるようになったといわれています。

そこへ、名乗りあげたのが生涯教育文化学科。この教授陣は、読者の知るとおり、福留強、松下俱子、清水英男、西村美東士、教授など、さすがに全国的にも、全国の生涯学習まちづくり大会等でも、おなじみの教授陣ばかりです。いわば教授陣は、すべて全国生涯学習まちづくり研究会、生涯学習まちづくり協会(研究会)のメンバーばかり。

特色は、生涯学習や文化のまちづくりを意識した独特の学科であるということです。例えば、教育科目には、ユニークな科目があります。社会教育の内容を基礎に「生涯学習まちづくり論」「生涯教育文化論」、女優を講師に迎える、「自己表現とコミュニケーション」まちづくりを企画する「生涯学習イベントの企画」などユニークな科目が並んでいます。

取れる資格は、社会教育主事資格を基礎に、図書館司書、博物館学芸員、中・高校教諭、レクリエーションリーダー、余暇開発指導員などが取得可能です。

「創年」も受験できるか? という問い合わせがありますが、女子大ですので、女性ならば年齢に関係なく受験できます。将来の发展は、全国にこの種の学科は非常に珍しいと思われる所以大いに期待できるといいます。周囲の方にも誇ってみてください。尚詳しくは、聖徳大学に問い合わせてください。

# 創年のたまり場の風景

「創年のたまり場」とは一言で言えば、……

「創年のたまり場」とは、どういうものなのか。「一言で言えば」と、「創年のたまり場オーナー」とその利用者に聞いてみました。いろいろな答えが返ってきましたが、それぞれの人々が持つ「創年のたまり場」の印象であり、また様々なものがあることがわかるようです。それらをみてみると創年のたまり場の全体像が浮かび上がります。

多くの答えの中から、キーワードを並べてみました。これは見方を変えれば、創年のたまり場の多様な機能であるということができるようです。

## コミュニティの形成に貢献する

- ・創年の休憩所
- ・お茶を飲んでいるところ
- ・作品が飾つてある
- ・各種団体の広報がある
- ・誰でも集まるところ
- ・おせつかい屋がいる
- ・同窓会などが開かれている
- ・趣味人の集会所
- ・町の集会所
- ・コーヒーが安い
- ・料理相談所
- ・散歩の寄り道
- ・囲碁将棋をしている
- ・ミニコンサートがある



## 子どもの教育に貢献しそうだ

- ・子育ての相談が多い

- ・少年団体の連絡所である

- ・学校との連絡所

- ・子どもの作品を展示している

- ・福祉的な機能をはたす

- ・囲碁・将棋をしている

- ・パソコンの練習所

- ・生け花があるところ

- ・創年の悩みを聞く所

- ・観光の拠点として機能する

- ・街の歴史がわかる

- ・景色がよいところ

- ・うまいものがある

- ・おみこしのあるところ

- ・地域研究の拠点として機能

- ・地域の情報がある

- ・地域のマップがある

- ・まちづくり拠点

- ・本があるところ

- ・子どもの道草中継点

- ・子どもが立ち寄るところ

- ・若者が立ち寄るところ

- ・漫画や絵本がある

- ・P.T.A.の役員がいる

- ・アンティーケな雰囲気

- ・趣味のコレクションがある

- ・ビデオがみられる

- ・健康相談所

- ・ボランティアが集まる

- ・近所の図書室である

- ・グループの話合いがある

- ・介護ボランティアの本部

- ・ボランティアが集まる

- ・地域の日印になる

- ・お菓子が食べられる

- ・特産品が売っている

- ・ガイドボランティア拠点

- ・まちづくり事務所

- ・地域の研究所

- ・地域の写真記録がある

- ・商店会の人が出入りをする

# トピックス

## ●まち研のHP「列島めぐりあい」

全国生涯学習まちづくり研究会のHPの「列島めぐりあい」が話題になっています。これは、同協会の理事長のコーナーで全国各地との交流や、まちづくりに係るホットな話題が日記風にあることで結構反応があるそうです。仕事場の大学。生涯学習社会貢献センター。そこでの女子大生との交流。まちづくりの話題。等日々の生涯学習まちづくりの現場の動きが短かく、時にはユーモラスに語られているところが関係者の話題になつてているようです。全国のまちづくりの動向がリアルタイムにわかるというのが特色です。

## ●「創年のたまり場」に殺到

千葉県の創年のたまり場1号店で、地元新聞が紹介したことから、その問い合わせ電話が殺到し、聖徳大学生涯学習まちづくり研究会の電話は、2日間にわたりなりっぱなしでした。問い合わせの内容は、創年のたまり場の場所、開設地域、利用の方法、今後の開設予定地など様々な問い合わせでした。当然、白井市の第1号店にも、お客様が殺到しました。今でも、県外からのお客様や、見学の予約などが続いています。レストランを主とする創年のたまり場だけに、嬉しい悲鳴が当分続きそうです。それでも、創年のたまり場に関する注目度の高さに、本部事務局も、オーナーも予想を上回

るものでした。

## ●まち研文化祭（10月30日）田畠哲彦さんのバンド

### かりゆしバンド東京公演に合わせて

鹿児島県与論島の民謡酒場の創年たまり場で活動する「かりゆしバンド」の、東京公演（九段会館ホール）が決定していますが、それにあわせて、全国生涯学習まちづくり協会（まち研）でも初の文化祭を実施しようと準備中です。出演者には不足しません。これまで、まち研にかかわった人々には多彩な人材がそろっています。

「かりゆしバンド」のほかに、シンガーソングライターの澤環さん（鹿児島）、マリヤ味記子さん（兵庫）、砂古隆男さん（広島）、歌手では、声楽家の八重樫節子さん（二期会）、シャンソンの杉村美恵さん（東京）、演歌の平沢美保子さん（東京）、童謡の大庭照子さん（熊本）、日本舞踊の花柳千代さん（東京）、現代舞踊の葵二三枝子さん（東京）、バレエの小林紀子さん（東京）、鶴見美穂子さん（東京）などが全国生涯学習まちづくり研究会レベルで活躍しています。また、落語家の矢野大和さん、（大分）、三遊亭円佐衛門師匠（東京）も活躍してしています。また、俳優でもこれまで10年間、まち研の理事をされた津川雅彦さん、坪内ミキ子さん、現在の会員・理事の稲垣美穂子さん、山本学さん、時々応援していただいた高見恭子さん、芹洋子さん、市田ひろみさん等、テレビでおなじみの人が多いのです。

このうち何人かの出演が決まれば、ユニークな文化祭が実現するでしょう。今後の、情報に注目して下さい。

# 創年のたまり場オーナーの心得

「創年のたまり場にして、お客

されるのです。

さんが増えました。おかげさまで赤字にならなくてすみそうです。」とあるオーナーから、喜びの報告がとどきました。たいへん喜ばしいことで事務局一同も大喜びでした。しかし、お客様多ければよいということでもありません。実際は経営者（オーナー）の内容の自己評価が大切だらうと思います。その利用者が満足しているかどうかが必要でしよう。創年のたまり場を経営することも、自ら創年の生きがいとしてまた、楽しみの一つとして運営されることが期待

創年のたまり場は、次のような大きく2つの視点をもつて経営して欲しいものです。

①その一つは、「創年」についての意志と、夢と、勇気をもつてこの運動を支援しているという自信、信念をもつことです。

創年は、これまでの人生で得た自分の宝を、地域や周囲の人々のために生かすということであることを忘れないことです。人は優れて他人に負けないものを持つているものです。それを生かすという信念で創年運動に参加していると思つてよい

⑦青少年にも関心をもち、地域の青少年にも親しまれる場所を目指しましょう

⑧創年のたまり場の独自性が生かされるように工夫しましょう

⑨できるだけイベント等を実施するなど地域によびかける工夫をしましょう

⑩日々の記録が残り、より多くの会員を広げるように心掛けましょう

でしよう。したがってそのよさを最大限生かしてあげるということを心がけていきたいものです。

②常に、創年のたまり場という機能を考えることです。

だれでも気軽に行きたいところ、必ず誰かに会えるということが創年のたまり場の特色にしたいものです。これは一般的な店舗なら通常の経営の基本になるものですから、特段に言うまでもないことですが。ただ、そのためには、次のような視点を重視したいものです。



・常に地域の人々とのつながりや生活のにおいが感じられるところならば最高です。地域の人々が花を飾ってくれたとか、会員の刺繡が置いてあるとか、オーナーの趣味が展示してあるとか、地域の子どもたちの写真があるとか、自分たちの自慢のたまり場であるという気持ちにさせる工夫を研究したいものです。

## 創年のたまり場オーナーの心得10か条

- ①創年運動を理解し、祖拡大をめざして推進しましょう
- ②来た人を大切にしましょう
- ③地域の人々の社会的な活動を理解し応援しましょう
- ④できるだけ創年の活動を支援しましょう
- ⑤たまり場は、清潔で利用者が自ら美化できる運動にしましょう
- ⑥結果的に収益は上がりますが、集客のためにたまり場を実施するわけではありません。利用者《客》からは簡単に見破られてしまいます。ここからサービスが基本です

〈総括部門 高齢者の生きがい対策と生涯学習まちづくりネットワーク創り〉

研究組織

◎福留 強 人文学部 児童学科 教授  
清水 英男 人文学部 児童学科 教授  
西村 美東士 人文学部 児童学科 教授  
齊藤 ゆか 生涯学習研究所 講師

注：◎は総括部門の主任

〈学術フロンティア推進事業報告シリーズバックナンバー案内〉

No.	タイトル	発行年月	判型	頁数
1	『少子化に関する地域システムの研究』	2004.3	A 4	100
2	『韓国の平生学習とまちづくりの推進』	2004.3	A 4	155
3	『高齢者の生きがい対策と人材活性化に関する研究』	2004.3	A 4	196 (+100)
4	『少子社会における子どものための地域活動の展開』	2005.3	A 4	196 (+100)
5	『生涯学習指導者の養成と活用に関する研究』	2005.3	A 4	46 (+162)
6	第6回生涯学習フォーラム－全国生涯学習まちづくり研究会－	2005.3	A 4	120 (+58)
7	地域の教育力の向上と子ほめ運動の現状	2005.3	B 5	202
8	地域福祉まちづくりの現状と実践的展開	2005.7	A 4	102

## **高齢者の生きがい対策と生涯学習まちづくりネットワーク創り (総括部門 報告書)**

平成15年～19年文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業「学術フロンティア推進事業」  
「生涯学習の観点に立った[少子・高齢社会の活性化]に関する総合的な研究」

---

2005(平成17)年8月 聖徳大学 生涯学習研究所  
監修・研究代表者 福留 強(聖徳大学生涯学習研究所 所長・教授)

聖徳大学 生涯学習研究所 学術フロンティア推進事業  
住所：〒271-8555 千葉県松戸市岩瀬550  
電話：047-365-5691 Fax：047-365-5692 E-mail:frontier@seitoku.ac.jp

聖徳大学 生涯学習研究所 学術フロンティア推進事業  
住所：〒271-0092 千葉県松戸市松戸1169 聖徳大学生涯学習研究所  
電話：047-365-5691・Fax：047-365-5692